SUSTAINABILITY REPORT 2016

マツダサステナビリティレポート2016

【社会貢献版】

zoom-zoom

編集方針

- マツダが国内・海外で実施している社会貢献活動をご報告します。
- 「マツダサステナビリティレポート2016【詳細版】※」掲載の「社会貢献」について、各国・各拠点の詳細活動を紹介することを目的としています。

※マツダの6つのCSRの取り組み分野である「お客さま満足」「品質」「安全」「環境」「人間尊重」「社会貢献」について、目標や実績を中心に報告。
(http://www.mazda.com/ja/csr/download/)

報告対象

対象組織：マツダ株式会社およびグループ会社を含むマツダグループ全体について報告。
対象期間：2015年4月から2016年3月を中心に報告（各グループ会社・財団の決算期ベース）。
一部、2016年4月以降の活動も報告しています。

CONTENTS

2 社会貢献

【国内の主な取り組み】

5 本社（広島県）
11 マツダ病院（広島県）
13 三次事業所（広島県）
14 防府工場（山口県）
17 美祢自動車試験場（山口県）
18 東京本社、マツダR&Dセンター横浜（東京都、神奈川県）
20 北海道剣淵試験場（北海道）
21 グループ会社
24 販売会社
26 マツダ財団

【海外の主な取り組み】

28 米国
32 カナダ
33 メキシコ
34 欧州
35 ロシア
36 中国
38 台湾
39 タイ
41 マレーシア
42 オーストラリア
44 ニュージーランド

お問い合わせ先
マツダ株式会社 CSR・環境部
TEL 082-287-4066 FAX 082-287-5315

EMPLOYEE'S VOICE

寄付やボランティア活動を通じて地域社会に貢献します

新車を1台販売・リースするごとに、お客さまご自身が選択した慈善団体へ寄付を行う「マツダ・ドライブ・フォー・グッド」キャンペーンの推進を担当しています。また、新車が試乗される度に1時間の奉仕活動を行うというユニークな企画を併せて行い、MNAOおよび全米のマツダディーラー従業員がボランティア活動に参加しています。今後も、従業員1人ひとりがそれぞれのやり方で地域への貢献ができるよう、マツダ・ドライブ・フォー・グッド・キャンペーンやボランティア活動を推進します。

マツダノースアメリカンオペレーションズ（MNAO）
コーポレート・インターナルコミュニケーション担当
ニック・ビアード

社会貢献

取り組み基本方針

基本理念

グローバルにビジネスを展開しているマツダは、企業活動を通じて、持続可能な社会の実現に寄与するために、それぞれの地域のニーズに即した取り組みを継続的に行い、良き企業市民としての責任を果たしていきます。

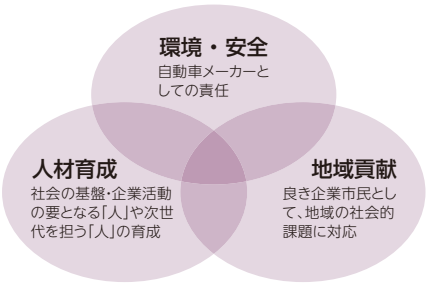
活動方針

- 国内・海外のマツダグループの本業を通して社会的課題に積極的・継続的に取り組む。
- 地域と協働し、それぞれの地域ニーズに即した活動を行い持続可能な社会の発展に貢献する。
- 従業員の自発的ボランティア活動を重視・支援する。多様な価値観を取り入れることで、柔軟性のあるイキイキとした企業風土の醸成を目指す。
- 活動内容を積極的に開示し、社会との対話に努める。

3つの柱

「環境・安全」「人材育成」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の柱とし、地域に根ざした活動を推進していきます(P3参照)。 a

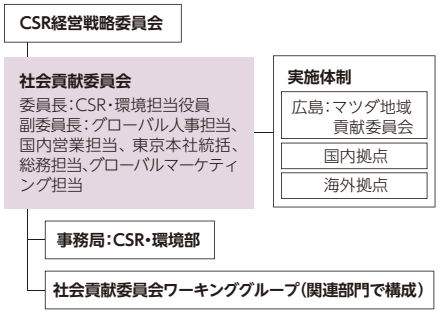
a 社会貢献 取り組み基本方針3つの柱



推進体制

2010年5月に「社会貢献委員会」を設置し、定期的に(年2回)開催する委員会では、CSR経営戦略委員会(【詳細版】※1P16参照)で決定した社会貢献に関する方針やCSR目標(【詳細版】※1P18-19参照)などに基づき、マツダグループ全体の課題を討議し情報を共有化しています。関連部門で構成するワーキンググループでは、具体的な活動内容を検討します。2010年からの委員会活動を通じて、グローバルおよびグループ視点での情報収集・活用を継続的に強化しています。個々の活動の実施にあたっては、各拠点・各部門がそれぞれ予算化し対応しています※2。 b

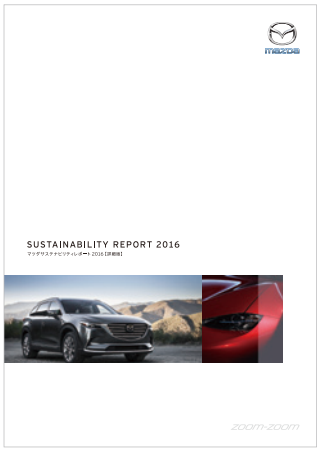
b 推進体制図



2015年度の主な実績

- CSR目標およびマツダグリーンプラン2020(社会貢献領域)(【詳細版】※1P51-52参照)にて目標を設定し取り組みました。 c
- 国内・海外で、400件※3以上の活動を実施しました。これらはマツダサステナビリティレポート【社会貢献版】に約100項目にまとめて掲載しています。
- 社会貢献プログラム影響評価指標に基づいたマツダ社会貢献活動優秀賞を設立し、PDCAサイクルを継続しています(P4参照)。

c マツダサステナビリティレポート2016【詳細版】



社会貢献プログラム影響評価指標

社会の課題を解決すると共に、企業価値の向上に貢献するプログラムを評価・促進するため、2014年度より社会貢献プログラム影響評価指標を設定し、PDCAプロセスを構築しました。指標は「社会への影響」「会社への影響」「マツダらしさ」の3つの視点で設定し、評価しています(具体的には、「受益者の数」「従業員の参加数」「社会貢献3つの柱との整合」などの8項目で構成)。資源の効率活用を目的として、2015年度の一部の取り組みを対象に投資対効果(SROI)を評価しました。

※1 http://www.mazda.com/ja/csr/download/
※2 日本、米国、オーストラリア、ニュージーランドでは、別途マツダ財団を通じての活動を実施。
※3 社会貢献活動該当範囲:金銭寄付、現物寄付、施設開放、社員の参加・派遣、自主プログラム、災害被災地支援。

3つの柱に基づいた取り組み

「環境・安全」「人材育成」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の柱とし、マツダが事業活動を行っているそれぞれの地域に根ざした活動を推進しています。

環境・安全

マツダのビジネスは地球温暖化やエネルギー・資源不足、交通事故などの社会的課題に関係／影響があります。これらの課題に対応するため、本業のみならず社会貢献活動においても「環境」「安全」の視点を大切にしています。 d e

- 各種イベントでの環境啓発、環境教育のための講師派遣、生物多様性保全を含む各種環境保全ボランティア活動など
- イベントにおける交通安全に関する講演、安全運転講習の実施など

人材育成

人は社会や企業活動の要であり、次世代を担うとの考えの下、社会貢献活動においても「人材育成」の視点を大切にしています。 f

- モノづくりなどの専門知識や技能を生かした講義・講演
- インターンシップの受け入れ、敷地内の施設を活用した自動車に関する学習支援など

地域貢献

ビジネスを展開している国・地域において、各地域社会が抱える固有の課題に対応するため「地域貢献」の活動を推進しています。 g

- 慈善団体への寄付や車両の寄贈、慈善活動への参加
- スポーツ・文化の振興など

従業員のボランティア

従業員がボランティア活動に積極的に取り組めるよう、支援を行っています。

- 活動する機会の提供（スペシャリストバンク、ボランティアセンターなど）
- 活動する費用の一部補助（マツダ・フレックスベネフィット（【詳細版】※1P87参照）など）
- 活動に伴う休暇の支援（ハートフル休暇制度に含まれるボランティア休暇など）
- ボランティア研修受講機会の提供

自然災害被災地支援

マツダグループでは被災地の復興を願ってさまざまな支援を行っています。地震や異常気象などが生じた際、マツダ本社と現地拠点が連携をとり、適切な支援を行っています。
最近の支援事例：東日本大震災／熊本地震（日本）、ネパール地震（ネパール）など。

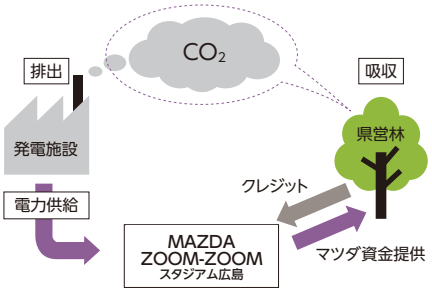
財団による支援

マツダおよびグループ会社は4カ国で財団を設立し、それぞれの地域に適した支援活動を促進しています。

国	財団名	支援内容／目的	設立年	2015年度助成（寄付）金額
日本	マツダ財団	科学技術の振興と青少年の健全育成	1984年	5,200 万円
米国	マツダ財団USA	教育・環境保護・社会福祉・異文化交流の助成	1990年	約 150 万ドル
オーストラリア	マツダ財団オーストラリア	教育・環境保護・科学技術振興の助成、社会福祉関連取り組みへの貢献	1990年	約 120 万豪ドル
ニュージーランド	マツダ財団ニュージーランド	教育・環境保護・文化活動の助成	2005年	約 23 万NZドル

d 【環境】森を育てる ナイター電力カーボンオフセット

「MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島（広島市民球場）」のナイター照明に必要な電力を発電するために排出されるCO_2を、広島県が県営林の森林整備により創出したクレジットでオフセット（4年連続実施）。



e 【安全】プロジェクト・イエロー・ライト

米国で実施している安全運転の啓発活動。運転中のスマートフォン操作の危険性を訴える公共広告映像募集への協力や、モータースポーツに関わる若いレーサーによる若者への安全啓発を実施。

f 【人材育成】「学校での安全プロジェクト」の推進

タイで実施している若者を対象とした安全と健康に関する啓発活動。安全・健康・環境およびチーム形成の学習を目的とした教育プログラムなどを提供。

g 【地域貢献】愛情防府フリーマーケット

防府市内の企業・行政・地域コミュニティなどが一体となって開催する西日本最大級の規模を誇るフリーマーケット。事務局として企画・運営に参加するほか、売り上げの一部を防府市の福祉団体への寄付や次年度の運営資金として提供。

※1 http://www.mazda.com/ja/csr/download/

マツダ社会貢献活動優秀賞

優れた社会貢献活動に対する表彰制度「マツダ社会貢献活動優秀賞」を2015年1月に創設しました。この制度は、マツダグループで取り組んでいる活動をより多くの方に知っていただくとともに、社内外に喜ばれる活動がさらに増えていくことを目的としています。
表彰対象は、社会貢献プログラム影響評価指標をふまえ、社会貢献委員会ワーキンググループメンバー、マツダ労働組合、およびマツダ労働組合連合会が連携して評価し、社会貢献委員会で選定します。受賞した活動に対しては、毎年1月、会社創立記念日にあわせて社長名の表彰状が贈られます。

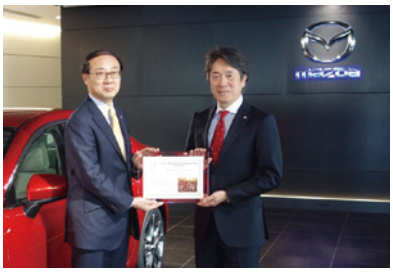
■ 2015年度マツダ社会貢献活動優秀賞
2015年度の表彰対象は、マツダサステナビリティレポート2015【社会貢献版】※1掲載の社会貢献活動(活動時期：2014年4月～2015年3月)の中から選ばれました。

	活動名	
大賞（国内）	「愛情防府フリーマーケット」（山口県） (マツダサステナビリティレポート 2015【社会貢献版】※1P15 参照)	h
大賞（海外）	「マツダ・ドライブ・フォー・グッド・キャンペーン」（米国） (マツダサステナビリティレポート 2015【社会貢献版】※1P28 参照)	i
特別賞	「従業員による献血」（広島県） (マツダサステナビリティレポート 2015【社会貢献版】※1P11 参照)	j
特別賞	「北海道剣淵試験場での交流イベント」（北海道） (マツダサステナビリティレポート 2015【社会貢献版】※1P19 参照)	k
特別賞	「小中学生の社会見学（マツダロジスティクス(株)）」（広島県） (マツダサステナビリティレポート 2015【社会貢献版】※1P20 参照)	l
奨励賞	「サラマンカの子どもたちへおもちゃを寄付」（メキシコ） (マツダサステナビリティレポート 2015【社会貢献版】※1P32 参照)	m

2015年度マツダ社会貢献活動優秀賞

h

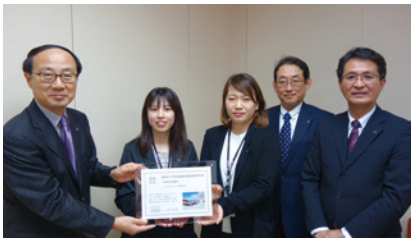
i



j

k

l



m

※1 http://www.mazda.com/ja/csr/download/

国内の主な取り組み

社会貢献取り組み基本方針に基づき、国内各拠点でそれぞれの地域ニーズに即した取り組みを積極的に行っています。

本社（広島県）

開発・生産・販売その他、多くの機能を担っている本社（広島）のある広島県では、「社会貢献取り組み基本方針3つの柱」に沿って幅広く取り組んでいます。特に安芸郡府中町や広島市近郊を中心に地域貢献に重点を置いて活動しています。

マツダミュージアム 環境 安全 人材 地域

目的：子どもたちの学習支援とステークホルダーとの交流を行う。
取り組み：本社（広島）内にあるマツダミュージアムは、1994年の開館以来約144万名の来館者をお迎えし、マツダの歴史や技術などの紹介をしています。また、実際に組立ラインの見学やクルマづくりの過程を学習できることから、小中学校の社会科学習に活用いただいています。日本語案内に加え英語案内を行っており、世界中からお客さまの来場があります。
2015年度実績
小中学生を中心に、約71,700名のお客さまを受け入れ。 a

マツダスペシャリストバンク 環境 安全 人材 地域

目的：従業員の専門知識や特技を生かした地域貢献を推進する。
取り組み：「マツダスペシャリストバンク」は、専門的な知識・技術・技能のほか、長年培ってきた特技・趣味などを持つマツダグループの従業員・OB／OGをスペシャリストとして登録し、主として広島、山口両県内の団体から要請があった場合、派遣する組織です。1994年の広島アジア大会に協力するための人材バンクを設立したことがきっかけでスタートし、累計で2,962回派遣を行いました。多様な人材を有するマツダの特徴を生かしたユニークな活動で、派遣内容は、学校での環境教育や、地域イベントでの手品の実演、スポーツ・レクリエーション指導など多岐にわたります。
2015年度実績
広島県・山口県内の地域行事や、学校などに59件139名を派遣。 b

夏休み中の小中学生への学習支援イベント 環境 安全 人材 地域

目的：小中学生の学習支援を通じて、地域や社会と交流を深める。
取り組み：社会科学習に活用いただける小中学生対象「船積み見学会」（1996年～）、開発部門や生産部門の若手従業員とクイズや実験を交えて行う小学生対象教室プログラム（2008年～）など、小中学生の夏休みの宿題や社会科の学習に役立てていただくよう、さまざまな場を提供しています。
2015年度実績

- 7月、理科や科学技術の楽しさを子どもたちに伝える教室プログラム「比べよう! クルマの今・昔～走る歓びと優れた環境・安全性能～」を実施。「府中公民館夏の講座」（主催・会場：広島県府中公民館）、「キッズエンジニア2015」（主催：（公社）自動車技術会、会場：名古屋市中小企業振興会館）に合計220名の小学生と保護者が参加。クイズや実験などを通して、CO_2削減の取り組みや交通安全について紹介。 c
- 7月、教育プログラム「クルマの形と空気のひみつ」を実施。「ヤング・フロンティア・ラボ」（主催：（公社）自動車技術会関西支部、会場：兵庫県尼崎市）に合計36名の小学生が参加。クイズや実験を交えてクルマの燃費向上の取り組みを紹介。
- 8月、本社工場内専用港に接岸している大型自動車専用船での「船積み見学会」を実施。小学4年生から中学生とその保護者約80名が参加。船内における、約10cm間隔での正確な駐車・固定やクルマの積み込み作業の見学、操舵室での操舵体験、船員の方との懇談などを実施。 d

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

本社（広島）の社会貢献活動推進者

総務・法務室
雲井 雅明

a マツダミュージアム

b 中学校での職業講話

c 環境・安全教育「比べよう! クルマの今・昔～走る歓びと優れた環境・安全性能～」

d 大型自動車専用船（船積み見学会）

出張講義・講演会・研修受け入れ・インターンシップ受け入れ 環境 安全 人材 地域

目的：多様な人材や企業内教育機関としての知識・技術を活用し、地域の人材育成に協力する。
取り組み：行政や教育機関などの要請に基づいて従業員を派遣し、環境・安全やモノづくりに関する技術などの講義や講演を行っています。加えて広島県や各種団体が推進する技能継承支援への協力や、産学官連携活動の一環として大学生のインターンシップ受け入れを行っています。また、マツダ工業技術短期大学校（マツダ短大）※1では、オープンカレッジを開講し、工業高校教員の方に実習の聴講や見学の機会を提供しています。

2015年度実績

- 広島県内の中学、高校、大学を中心に、講義や講演を約130件実施。
- 産学官連携活動の一環として大学生および大学院生のインターンシップ106名を受け入れ（【詳細版】※2P123参照）。
- 4月、全日本学生フォーミュラ大会参加チームを対象に運転技術向上を目的とした（座学・実技による）運転講習会を開催（12校34名参加）。9月、同フォーミュラ大会に協賛するとともに、4月から9月にかけて運営準備の支援。
- 6月から8月、マツダ短大が開催するオープンカレッジに25名を受け入れ。
- 11月、「ひろしま技能フェア」に、マツダブースを出展。ロータリー型文鎮やオリジナル缶バッジの製作、技術者による板金の実演、第43回技能五輪※3国際大会の敢闘賞受賞選手による曲げ板金製作課題などの紹介、からくり改善®※4作品展示を実施。 e

e オリジナル缶バッジの製作

マツダボランティアセンター 環境 人材 地域

目的：人材を活用した地域貢献を推進する。
取り組み：「マツダボランティアセンター」は、ボランティア活動を希望するマツダグループの従業員・OB／OGとその家族に登録してもらい、広島県を中心とした団体からの派遣要請に応える組織です。阪神大震災（1995年）をきっかけとした市民のボランティア意識の高まりを受け、1996年に設立されて以来、これまでに約640件に対応しました。

2015年度実績

福祉イベントにおける会場設営や撤去、車椅子の介助など11件25名が参加。 f

f マツダボランティアセンター

マツダスタジアムでの社会貢献活動 環境 地域

目的：マツダスタジアムを活用した地域の活性化に貢献する。
取り組み：命名権を取得した広島市民球場（MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島）の支援を通じ、広くマツダと広島の存在をアピールすると共に、さまざまな地域貢献活動を行っています。

2015年度実績

- 広島県のカーボンオフセットの取り組みに賛同し、2015年のスタジアムのナイター照明用として14万9千kWh、CO_2排出量にして約107トンを広島県の森林吸収量クレジット（広島県営林J-クレジット）でオフセット（P3参照）。
- 来場者数100万名の節目ごとに、マツダ製の福祉車両1台を社会福祉団体に贈呈しており、累計来場者数が4月に1,000万名、7月に1,100万名に達したことを受け、広島市の団体に2台贈呈。 g

g マツダスタジアムでの福祉車両贈呈式

※1 マツダのモノづくりの中核を担う人材を育成するため、高校新卒者および社内選抜者を対象に設立された企業内大学校で、厚生労働省の認定校。
※2 http://www.mazda.com/ja/csr/download/
※3 各国の22歳以下（一部例外あり）の者が技能を競うことにより、参加国の職業訓練の振興と技能水準の向上などを目的とした大会。
※4「からくり改善®」は（公社）日本プラントメンテナンス協会の登録商標。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

地域の森林保全活動に協力 環境 地域

目的：森林保全活動に貢献し地域と交流する。

取り組み：2010年に広島県と森林保全活動に協力する「森林保全・管理協定」を締結し、広島県緑化センター（広島市東区）内の「マツダの森※1」を中心に地域の森林保全活動に協力しています。また同時に「ひろしま森林（もり）づくりフォーラム」に加入し、広島県内の森林関係団体などと連携し「企業の森づくり」を推進しています。

2015年度実績

- 広島県緑化センターの指定管理者と連携して「マツダの森」の保全活動を推進。
  10月には、森林保全ボランティア団体の指導・協力のもと、マツダグループ従業員やOBとその家族・友人、地域の社会貢献活動研究会※2メンバーがボランティアとして計画的除伐に協力するとともに、ミニレクチャー「秋の森の楽しみ方!」で参加者の環境保全意識を高揚（労使協働プログラム：77名参加）。除伐作業終了後は、当日参加の小学生を対象に「植物の観察とマップづくり～森の木に手作りネームプレートを付けよう～」を実施。 h
- 5月、ひろしまの森林（もり）づくりフォーラム主催の「平成27年度『フォーラムの森』森林保全活動」に、ボランティアとして従業員有志が参加。

h 「マツダの森」での除伐作業

ひろしまの森づくり
キャラクター
「モーリー」

清掃ボランティア／リサイクル収集活動 環境 地域

目的：清掃ボランティア／リサイクル収集活動により地域貢献を推進する。

取り組み：休憩時間などを利用して定期的に工場・事業所周辺の清掃に取り組むほか、休日に行政が主催するクリーンキャンペーンへの参加や独自の清掃活動を行っています。また、ペットボトルキャップやプルタブ・アルミ缶の回収を通じてリサイクル収集品の活用を行っています（労使協働プログラム）。

その他、余剰カレンダー・手帳をマツダグループ従業員から収集し、地域の社会貢献活動研究会※2を通して、社会福祉団体などへ寄贈しています。

2015年度実績

- 清掃ボランティア活動に延べ約5,830名が参加：会社周辺清掃（12回）、行政主催キャンペーン（8回）、マツダスタジアム周辺清掃（5回）、JR駅周辺清掃（3回）、東部流通団地周辺（11回）。 i
- ペットボトルキャップ約150万個を収集しNPOへ引き渡し。
- 余剰カレンダー・手帳を収集（カレンダー：約3,500本、手帳・本：約900冊）。

i マツダスタジアム周辺清掃

環境イベントへの参加 環境

各種環境イベントへ参加しています（【詳細版】※3P77参照）。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 マツダ本社の北東に広がる約125ヘクタールの天然林にある「広島県緑化センター」内の一部区画（5.85ヘクタール）について愛称がつけられたもの。
※2 企業等社会貢献活動研究会。マツダを含む18社1団体が参画。
※3 http://www.mazda.com/ja/csr/download/

マツダ親和会体育部によるスポーツ指導、文化部によるコンサートの実施 人材 地域

目的：スポーツ振興および各競技の普及・競技力向上、地域の文化振興へ貢献する。
取り組み：マツダには、従業員相互の親睦と、社内全体の活性化を図ることを目的としたクラブ（体育部24部、文化部4部）があります。
体育部は、各自治体、競技団体から要請を受け、現役選手による出張教室を開催しています。
文化部は、地域イベントの活性化や慰問などを目的としたコンサートを定期的に実施しています。
2015年度実績

- 陸上競技部：子ども陸上教室を年2回開催（約90名参加、北海道剣淵町ほか）。 j
- ラグビー部（愛称：「MAZDA BLUE ZOOMERS（マツダブルーズーマーズ）」）：小学生対象のタグラグビー教室を年5回開催（約590名参加、広島市）。
- 女子バレーボール部：バレーボール教室・指導者向け講習会を年4回開催（約350名参加、三次市ほか）。
- 自動車部：地域のモータースポーツ活性化を目的としたJAF公認ジムカーナ・ダートトライアル大会を年2回開催（約130名参加、安芸高田市ほか）。
- 合唱部：コンサートを年6回開催・出演（約3,100名参加、安芸郡ほか）。
- 軽音楽部：コンサートを年5回開催・出演（約750名参加、安芸郡ほか）。

j 子ども陸上教室

本社（広島）ロビーイベント 人材 地域

目的：本社（広島）ロビーを活用し地域社会へ貢献する。
取り組み：地域の皆さまやマツダファンの皆さまに楽しんでいただくためのさまざまなイベントを開催しています。
2015年度実績

- 8月：デザインやアートに関心のある高校生以上の生徒・学生を対象に「マツダデザイン特別講座」を開催（20名参加）。
- 11月：アカペラグループ「イザベラ・ア・カペラ（Isabella A Cappella）によるコンサートを開催。
- 11月：広島交響楽団のメンバーによるコンサート（弦楽四重奏）を開催。 k

k ロビーコンサート（弦楽四重奏）

福祉施設訪問ボランティア 地域

目的：地域との連帯感の醸成および共生を推進する。
取り組み：毎年6月から7月にかけて、マツダグループ従業員・OB／OGとその家族のボランティアが福祉施設を訪問し、農園の整備、草刈などの共同作業や、原爆慰霊碑参拝送迎の協力を通じ、入所者の方々と交流を深める活動を1986年から行っています（労使協働プログラム）。
2015年度実績
延べ54名のボランティアが福祉作業所や老人介護施設などを訪問。 l

l 施設が保有している畑の草刈り

地域の課題研究 地域

目的：地域・社会の身近な問題点を住民視点で発掘し、解決する。
取り組み：マツダ工業技術短期大学校（マツダ短大）※1では授業の一環として企業が地域貢献に取り組む意義を学び、地域の身近な問題点・課題を、住民視点で発掘し解決する活動を行っています。学生は、地域の方々や関係者と連携してその解決に取り組んでいます。
2015年度実績
「地域の活性化」をテーマに活動を実施。マツダ短大の所在地である広島市南区の将来像の一つである「人と人のつながりを大切にし、みんなが支え合うまち」に着目し6チームがそれぞれテーマ設定し、実施。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 マツダのモノづくりの中核を担う人材を育成するため、高校新卒者および社内選抜者を対象に設立された企業内大学校で、厚生労働省の認定校。

2015ひろしまフラワーフェスティバルへの参加 地域

目的：地域イベントへの積極参加による地域の活性化に貢献する。
取り組み：5月連休に開催される広島県最大級の祭り「ひろしまフラワーフェスティバル」に、1977年の第1回から毎年参加しています。「マツダZoom-Zoomひろば」では、親子で楽しめる催しの開催やマツダ車の展示を行っています。
2015年度実績

- 福祉機器寄贈のための「チャリティビンゴ大会」を実施。 m
- ステージで地域の皆さまによる歌や踊り、広島東洋カープやサンフレッチェ広島の選手によるトークショー、大道芸人によるパフォーマンス披露。
- お子さま対象の交通安全キッズクイズラリーやモノづくりコーナーでの「マツダ ロードスター」などのオリジナルキーホルダーづくりを実施。
- 花のパレード(環境啓発を目的とした広島市環境局主催のパレード)に「マツダ CX-3」で参加。また、ロードスターファンクラブの皆さまと協力してロードスターパレードを実施。

m チャリティビンゴ大会

第51回マツダ駅伝大会の開催（広島） 地域

目的：工場施設を開放したイベント開催による地域との交流を促進する。
取り組み：社内駅伝大会として1966年から開催していましたが、1981年に地域の皆さまとの交流を目的に「コミュニティの部」を設けました。工場構内一周16.3kmのコースを7区間に分け、子どもから大人まで、参加いただいています。タイムを競うだけでなく、目立つように工夫を凝らすチームなど参加者がさまざまに楽しんでいます。
2015年度実績
3月、マツダ従業員の部門対抗による社内の部139チームに加え、地域・サプライヤーの皆さまなどによるコミュニティの部135チームの選手が遠くは九州、関東から参加（計274チーム・約2,000名）。 n

n 選手たちが一斉にスタート

広島3大プロ（サンフレッチェ広島、広島東洋カープ、広島交響楽団）の支援 地域

目的：地元プロサッカーチーム、プロ野球チーム、プロ交響楽団の支援を通じた地域のスポーツおよび文化振興に協力する。
取り組み： サンフレッチェ広島および広島東洋カープについては、ユニフォームスポンサーに加え、年に1度、マツダスポンサードゲームを開催し支援しています（労使協働プログラム）。また、広島交響楽団については、定期演奏会や特別コンサートシリーズなどに協賛しています。
2015年度実績

- サンフレッチェ広島マツダデー：先着7,000名にマツダとサンフレッチェ広島がコラボレーションした「マツダ ロードスター オリジナルタオルマフラー」を提供。 o
- カープエンジョイマツダデー：福祉車両寄贈セレモニーの実施（P6参照）。
- 広島交響楽団の「秋山和慶のディスカバリーシリーズ」全4公演に協賛。また、第351回定期演奏会にプレミアム協賛。

o ハーフタイムにはパレードで場内を盛り上げ

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

東日本大震災復興への支援 地域

東日本大震災の復興支援に継続して取り組んでいます。 p

2015年度実績

- 国内販売店お客さまへのアンケートご回答1件につき50円を寄付。185,454名のお客さまに協力いただき、日本NPOセンター「東日本大震災現地NPO応援基金」に寄付。
- 被災児童自立支援プロジェクト「Support Our Kids」の趣旨に賛同し、同実行委員会を通じて中高生10名の「第5回ホームステイプログラム」のフランスでのホームステイ、ルマン24時間レース招待、レーシング・カート体験走行などを支援。 q
- 環境イベントで被災地のカーボンオフセットクレジット購入を通じ支援(【詳細版】※1P77参照)。
- 「ロードスターチャリティフリーマーケット」の収益の一部を寄付(P19参照)。
- マツダ財団の市民活動支援を通じた助成。2件の被災地復興支援プログラムに総額25万円を助成(P27参照)。

多方面への寄付活動 地域

地域社会への貢献や学術・教育、文化・芸術、国際交流、スポーツ振興などを目的として、さまざまな分野の活動に資金を提供しています。2015年度は、科学技術の振興と青少年の健全育成のための助成などを実施するマツダ財団や、公共団体などに寄付しました(自然災害への義援金含む)。

その他取り組み 地域

マツダでは、1964年から就業時間中の献血(日本赤十字社)を開始し、2015年度は(防府工場を含め)約2,800名(累計約94,800名)が協力しました。その他、山口県で開催された第23回世界スカウトジャンボリーへの協力、地域の防災や消防活動※3への協力、地域経済団体への出資・人材派遣などに取り組みました。

p 「双葉町(福島県)」から感謝状の受領※2

q 被災児童自立支援プロジェクト「Support Our Kids」

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 http://www.mazda.com/ja/csr/download/
※2 2011年4月に、マツダが福島県双葉町役場にマツダ車を寄贈したことによるもの。
※3 2014年11月、マツダは広島市消防団に積極的に協力している「広島市消防協力事業所」として認定されました。

マツダ病院（広島県）

「温かい思いやりの心で、最新・最良の医療を提供し、社会に貢献します」という理念のもと、マツダ病院は広島市東部の基幹病院として、医療を通じて地域貢献に取り組んでいます。一日の外来患者約700名、入院患者約230名。救急車受け入れは一日平均8台（近隣のみならず広域からの受け入れ）。
企業立病院ですが、地域の皆さまの利用が外来の85%、入院の97%を占めています。[a][b]
（マツダ病院公式ウェブサイト　http://hospital.mazda.co.jp/）

未来の医療職のための人材育成 人材 地域

目的：医療職を志す学生への実習体験などの提供を通じた人材育成を行う。
取り組み／2015年度実績

- 医療系学生の実習指導（8職種／専攻・264名の受け入れ）。[c]
- 看護協会と連携し、「ふれあい看護体験」を実施（高校生20名参加）。
- 広島県と連携し「医療体験セミナー」を実施（医師を目指す高校生対象・6名参加）。[d]
- 中学生の「職場体験」を実施（6名参加）。

出張健康教室・講座 人材 地域

目的：地域住民へ最新の医療情報を提供し予防知識・意欲の向上に寄与する。
取り組み／2015年度実績

- 広島市安芸区と連携し「高血圧予防教室」を実施（43名参加）。
- 地域の自治体と連携し「公開医療講座」を8回実施（275名参加・累計284回）。

がんサロンの開催 地域

目的：がん患者の不安や悩みのケアの場を提供する。
取り組み／2015年度実績

安芸地区ホスピスボランティア養成講座実行委員会と共催し、2015年11月から開始。医師、看護師、薬剤師も加わり日々の身近な悩みの共有や意見交換の場を提供しています。

- 「がんサロン」を開催（5回・68名参加）。

院内健康教室 地域

目的：病気の正しい理解と自己で行える予防知識を提供する。
取り組み／2015年度実績

- 「骨粗しょう症教室」を実施（12回・315名参加）。
- 「糖尿病教室」を実施（12回・207名参加）。

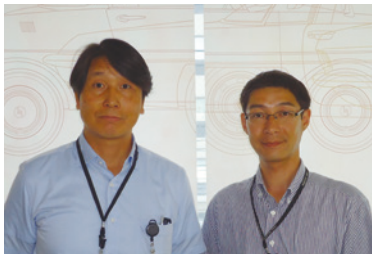
医療情報の発信・地域の救急隊との連携 地域

目的：医療情報の発信・提供を行うとともに、救急医療の向上に寄与する。
取り組み／2015年度実績

- 医療情報・健康情報などを掲載した、「季刊誌ひまわり」を定期発行。病院内・近隣開業医へ無料配布。
- 広島市や府中町と連携し、地域医療の向上を目指した「救急症例検討会」を実施（4回・203名参加）。救急隊員と当院医師が、症例別の搬送時対応や救急搬送後の経過などの情報を共有し、地域の救急対応力向上への取り組みを強化。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

マツダ病院の社会貢献活動推進者



事務グループ
チームリーダー
土田 耕司

総務・用度チーム
水野 幸郎

a マツダ病院入院棟

2012年1月に入院棟完成。2013年3月には外来棟の耐震化・改修工事も完了。

b 2015年度の患者数

延べ外来患者数	約170,000名／年	延べ入院患者数	約84,600名／年
救急車患者数	約2,800名／年	健康診断受診者数*	約20,400名／年

*従業員の健康診断含む。

c 医療系学生の実習受入れ実績

職種／専攻	人数
医師	37
薬剤師	10
看護師	140
臨床検査技師	23
理学療法士	7
管理栄養士	15
歯科衛生士	29
医療経営	3
合計	264

d 高校生医療体験セミナー（電気メス体験の様子）

TOPICS

マツダ病院の歴史

～従業員医務室からスタートして78年、地域に愛される病院を目指して～

マツダ病院の原点は、1938年に「従業員の健康管理のため」に設置した医務室です。
医師2名・看護師1名からのスタートでした。

地域と従業員のために

1961年 現在の地に東洋工業付属病院を建設しましたが、これはマツダ創業者 松田重次郎の「地元への恩返し」という考えによるものでした。増加する従業員の健康管理を強化する必要もありましたが、松田重次郎の「当社は地域の皆さんに大変お世話になっている。地域社会に役立つものは何かと考えた。それは病院をつくることである」との強い想いが病院建設を具体化させました。病院建設にあたっては、「地域に開かれた病院にすること」「従業員とその家族の健康を管理すること」を基本方針とし、現在も受け継いでいます。
開院当時、10診療科を標榜し、スタッフ数は約200名。冷暖房を完備し、最先端医療機器を導入、検査品質を高めるための中央検査室を採用するなど、一企業の付属病院としては当時画期的であると評されました。

拡充と挑戦

1980年代以降、医療の高度化・専門化に対応しながらも、常に安全で質の高い医療を提供するために体制の拡充を実施、日帰り手術センター開設、電子カルテの導入など、新しい取り組みにも積極的にチャレンジしてきました。
地域の皆さまのご利用は、開院当初の約2割から現在では9割を超えており、地域に根差した医療を提供しています。

未来へ

団塊世代が後期高齢者となる2025年に向けて「地域包括ケアシステム～地域完結型医療」が推進されているなか、超高齢社会では「治す医療」から生活の質を高め「治し支える医療」を目指す必要があります。地域包括ケアシステムの中核病院となることを目指し、患者診療支援センターの開設（2015年1月）、地域包括ケア病棟の開設（2016年1月）など地域医療連携強化の取り組みを加速しています。

マツダ病院は今後も、開院時の想いをつなぎ「いつまでも地域にとってかけがえのない病院」を目指し、医療を通じて社会に貢献していきます。

1938年	東洋工業株式会社(現マツダ株式会社)の構内に医務室を設置
1941年	診療科目を増やし東洋工業付属医院に
1945年	原爆投下により被災した方々を受け入れ会社の寄宿舎・食堂も開放し救護にあたる
1961年7月	東洋工業付属病院開院 (現マツダ病院)
1982年12月	健診センターを開設
1996年6月	県内初の日帰り手術センターを開設
2003年2月	電子カルテを導入 ※県内200床以上の病院で初
2011年3-6月	東日本大震災の支援活動 (災害支援ナース及び医療救護チームを派遣)
2012年1月	入院棟完成 (病床数270床)
2013年3月	外来棟の耐震化・改修工事完了
2013年8月	立体駐車場新設。クルマで来院される方の利便性をさらに向上
2014年8月	広島土砂災害の支援活動 (災害支援ナースを派遣)
2015年1月	患者診療支援センター開設
2016年1月	地域包括ケア病棟開設

入院・外来患者数に占める地域の方々の推移

1966年	1981年	1996年	2011年	2015年
18%	42%	66%	89%	91%

三次事業所（広島県）

広島県北部の三次市にある三次事業所は総合自動車試験場とエンジン工場から成ります。1965年の自動車試験場開設以来、特に地域貢献に重点を置き、広島県北部のマツダグループ企業が一丸となり地域のニーズに応える取り組みを継続的に行っています。

エンジン工場の見学受け入れ 人材 地域

目的：子どもたちの学習支援と地域との交流を行う。

取り組み：三次事業所では、エンジン工場の見学受け入れを行っており、地域の小中学生の社会科学習に活用いただいています。また、地域の人材育成に協力するため、地域の学校や行政機関からインターンシップを受け入れています。 a

2015年度実績

- 小中学生を中心に119名の見学を受け入れ。
- 地域の高校生など7名のインターンシップを受け入れ。

地域の活性化や美化に貢献 環境 地域

目的：地域の代表的イベントや清掃活動に積極的に参加するなど、地域の活性化や美化に貢献する。

取り組み：三次市のマツダグループ会社と共にイベントや清掃活動に参加するなど、地域の皆さまとの交流・地域活性化に努めています。また、三次市観光協会、三次商工会議所の会員企業の一員としてイベント運営の支援を行っています。

2015年度実績

三次市のマツダグループ会社と共に活動しています。

- 4月：尾関山公園の「三次さくらまつり」にブース出展や実行委員として参加。
- 5月：鵜飼乗船場の一斉清掃に58名が参加（6月1日の鵜飼開きに合わせ、三次市内の企業・団体が集まり合同で実施）。
- 7月：「三次きんさい祭」に132名が実行委員やマツダ車によるパレード隊として参加。 b
- 8月：「みよし市民納涼花火まつり」に有志が実行委員やボランティアとして参加。
- 8月：「庄原よいとこ祭」に89名がマツダ車によるパレード隊として参加。
- 9月：「マツダ三次試験場開業50周年記念イベント」を開催し、試験場を開放。約500名の三次市民の皆さまが来場。
- 10月：「三次商工フェスティバル」にブースを出展し43名が実行委員やボランティアとして参加。
- 3月：尾関山公園の一斉清掃に49名が参加（三次さくら祭の開催に合わせ、三次市内の企業・団体が集まり合同で実施）。 c
- 毎月（雨天時を除く）：会社周辺清掃を11回実施。延べ194名が参加。

初期消火操法技術競技大会※1への参加 地域

目的：定期的な防災大会に参加し、地域の非常時の備えの強化・啓発に貢献する。

取り組み：事業所内の危険物施設に関わる従業員でチームを編成し、長期間にわたる練習を重ねて地域の大会に出場することで、通報連絡、危険物の退避、消火器や消火栓を使用した初期消火活動などの技術・技能の強化に努めています。また、要請に応じて他社の選手の指導にあたるなど、地域への貢献を意識した取り組みを進めています。

2015年度実績

大会には5チーム・10名が参加。第30回の記念大会において、三次事業所は男子の部として歴代最多出場事業所として感謝状をいただきました。また、危険物の安全管理ならびに災害防止に関する一連の事業活動が認められ、全国危険物安全協会から表彰を受けました。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

三次事業所の社会貢献活動推進者

総務・法務室 三次事業所
三上 晃智

a インターンシップ受け入れ

b 太鼓を鳴らしながらパレード（三次きんさい祭）

c 尾関山公園の一斉清掃に参加

※1 初期消火について日頃の訓練の成果を競う大会（第30回）（主催：備北地区危険物安全協会）。

防府工場（山口県）

山口県防府市にある防府工場は自動車工場（西浦地区）とトランスミッション工場（中関地区）から成ります。1981年の操業以来、地域と共に発展することを目指して特に人材育成・地域貢献に関する取り組みに力を入れています。

地域の森林保全活動に協力 環境 地域

目的：森林保全活動に貢献し地域交流する。
取り組み：山口県が実施する利水企業による「企業との協働による水源の森づくり」の趣旨に賛同し、2005年からボランティアとして森林保全活動に参加しています。また、防府市の「ふれあいの森づくり事業」の趣旨に賛同し、佐波川流域森づくりの会主催の「佐波川流域大平山ふれあいの森づくり」に2013年からボランティアとして下刈りや植樹などの活動で協力しています。
2015年度実績

- 6月、11月、3月に「佐波川流域大平山ふれあいの森づくり」に下刈りや植樹ボランティアとして、延べ21名が参加。
- 10月、「水を守る森林づくり体験活動」に間伐作業ボランティアとして有志が参加。

自動車工場（西浦地区）の見学受け入れ 人材 地域

目的：子どもたちの学習支援と地域との交流を行う。
取り組み：防府工場では、西浦地区の第1工場が稼働した1982年以来、約53万7,000名の工場見学来場者をお迎えしています。工場見学ツアーは、主に近隣の小学校の社会科見学や各種団体に活用いただいています。
2015年度実績
小学生を中心に約10,000名のお客さまを受け入れ。

第34回マツダ招待少年サッカー大会の支援 人材 地域

目的：青少年の健全な育成と地域スポーツ振興に協力する。
取り組み：防府市サッカー協会主催の同大会に、初回から支援を続けています。この大会は、1982年の防府工場の竣工記念として開始し、毎年、夏休み中の2日間にわたって行われます。山口県や近隣県の強豪チームが集まり、伝統ある大会として定着しています。
2015年度実績
8月、防府市陸上競技場他にて、山口県内20チーム（防府市内13チーム）と県外4チームの合計24チーム、約400名の選手が参加。 a

防府工場の社会貢献活動推進者

防府工場
下野 行雄

a マツダ招待少年サッカー大会

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

出張講義・講演会・研修受け入れ・インターンシップ受け入れ 人材 地域

目的：地域の学校が行う人材教育に協力する。
取り組み：地域の学校の要請に基づき、学習意欲向上につながる取り組みに2001年から協力しています。工場での職場体験や、山口マイスター※1に認定されている従業員を派遣した職業講話を行っています。
2015年度実績

- 中学校、高校、高等専門学校、大学、計18校約67名の生徒、学生を受け入れ。
- 高校（計11回・5校）を訪問し、山口マイスターに認定された従業員が技能検定のための講話。

「船積み見学会」の開催 人材 地域

目的：子どもたちの学習支援をする。
取り組み：社会科学習に活用いただける小中学生対象「船積み見学会」を2013年から実施しています。
2015年度実績
11月、防府工場近隣の中関港に接岸している大型自動車専用船での「船積み見学会」を実施。小学4年生から中学生とその保護者42名が参加。 b

b 船積み見学会

第23回愛情防府フリーマーケットへの参加 地域

目的：地域イベントへの積極参加により地域の活性化に貢献する。
取り組み：毎年10万名以上の来場者があり、西日本最大級の規模を誇るフリーマーケットである「愛情防府フリーマーケット」に、1993年の初回から参加しています。このフリーマーケットは、「愛情防府運動」※2の代表的なイベントとして企業や商工会議所、行政、商店街が一体となって開催しています。また、防府工場は、愛情防府運動推進企業の事務局として、企画・運営に参加するほか、協力企業と合同でマツダブースを出展しています。
2015年度実績

- マツダブースでは、ボランティアスタッフとして、防府工場のマネジメントを含む従業員330名が参加。 c
- 従業員が提供したバザー用品の販売、さまざまな地産地消の素材を使ったうどん、焼きそばなどの食品販売を実施。売上の一部は防府市の福祉団体への寄付や、次年度のフリーマーケット運営資金として活用。この他、スタンプラリーの受付支援、マツダ車を展示。

c 愛情防府フリーマーケット（マツダブース）

第23回愛情防府マツダ駅伝競走大会の開催 地域

目的：工場施設を開放したイベント開催による地域との交流を促進する。
取り組み：従業員だけでなく、一般の方からも広く参加者を募り、工場の敷地内をコースとする駅伝大会を1994年から開催しています。この大会は、「愛情防府運動」※2の一環として行われており、地域の皆さまと親睦を深める機会となっています。
2015年度実績

- 2月、マツダ従業員の部門対抗による社内の部32チームに加え、コミュニティの部59チームが、山口県内外から参加（子どもから大人まで計91チーム・約720名）（2015年度のコースは8区間約13.3km）。 d

d 愛情防府マツダ駅伝競走大会

※1 ものづくりの分野において、優れた技能を有し次世代技能者の育成に意欲がある人を山口県が認定。
※2 1993年4月、マツダ他が「企業も市の一家族」の精神で提唱し、防府市内に工場を持つ進出企業や関連会社35社が参加しスタート。現在は、150社の推進企業で構成されています（マツダ防府工場内に事務局）。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

第46回防府読売マラソン大会への協賛・協力 地域

目的：スポーツ振興と地域との交流に貢献する。
取り組み：毎年12月第3日曜日に開催されるマラソン大会に2014年度から協賛・協力しています（主催：日本陸上競技連盟）。
2015年度実績

- ナンバーカードスポンサーとしての協賛、伴走車両6台提供のほか、給水ボランティア約20名が参加。

児童養護施設へのリユース品の提供 地域

目的：就職などで施設を出て一人暮らしを始める人を支援する。
取り組み：防府工場の従業員を中心に、リユース可能な衣類、家電製品、家具や生活用品を山口県内の施設へ2010年から提供しています。
2015年度実績
防府市、山口市、山陽小野田市の計4施設に、リユース衣類（段ボール20箱以上）を提供のほか、家電製品や机、ベッドなどを寄贈。

地域の伝統行事への参加や清掃活動を通じた貢献 環境 地域

目的：地域の伝統行事などへの参加や地域清掃を通じ、地域の活性化や美化に貢献する。
取り組み：地元で行われる伝統的行事やイベント、清掃活動へ従業員が積極的にボランティアとして参加し、地域の皆さまと親睦を深めることで、地域の活性化に努めています。
2015年度実績
防府工場の従業員が中心となって参加しています。

- 4月：宇佐八幡宮シャクナゲまつりに、40名が参加（駐車場の誘導など）。
- 4月、5月：「春の幸せますフェスタ」に、15名が運営スタッフとして参加。
- 6月：阿弥陀寺あじさいまつりに50名が参加（駐車場の誘導係）。
- 6月：富海海水浴場清掃ボランティアに、マツダ防府工場安全衛生協力会※1に加入するマツダグループ会社の従業員有志が参加。
- 7月、11月：新山口駅周辺清掃と防府商店街～防府天満宮の清掃に、延べ350名が参加。 e
- 10月：防府天満宮「花神子社参式」の準備に26名が参加。
- 11月：裸坊祭の名で知られる防府天満宮の「御神幸祭」に、140名が裸坊として参加。 f
- 12月：防府商店街の餅つきに、25名が参加。 g
- 1月：「冬の幸せます フェスタ」第11回鍋-1グランプリに、約20名が参加（会場設営、来場者の誘導）。
- 2月：防府天満宮の節分祭に、有志が福娘として参加。

e 山口市パークロード周辺の清掃

f 防府天満宮「御神幸祭」

g 防府商店街の餅つき

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 地元の86社で構成され、部品の製造や輸送、設備維持などで製造工場の操業をサポートする協力会。

美祢自動車試験場（山口県）

山口県美祢市にある総合自動車試験場「美祢自動車試験場」は、2006年の開設以来、自動車試験場の特徴を生かした社会貢献活動を継続的に行っています。

美祢自動車試験場の施設提供 安全 地域

目的：試験場を会場として提供することで、地域の活性化、交通安全に協力する。
取り組み： 全長3.33kmの周回路を持つ施設の特徴を生かし、山口県警察の運転技量向上訓練時や、行政などが主催、後援する駅伝大会他のイベントに会場を提供しています。
2015年度実績

- 山口県警察主催の交通安全研修：5回実施、延べ77名が参加。
- 美祢市駅伝競走大会実行委員会他主催「第8回美祢市駅伝競走大会」：小学生から一般まで、7コース72チーム・578名のランナーが参加（応援者を含めた来場者は、約1,620名）。 a
- 美祢市クラシックカーイベント「la Festa Della Automobile Classica」：約1,000名が参加。

a 小学生の懸命な走り

美祢市認知症等高齢者徘徊・見回りSOSネットワーク協定 地域

目的：安心、安全な街づくりのために協力する。
取り組み： 徘徊のおそれのある認知症等高齢者が行方不明になった場合、早期に発見できるような関係機関の支援体制に参加し、認知症等高齢者の生命および身体の安全を図ることに協力しています。
2015年度実績
美祢市における「美祢市認知症等高齢者徘徊・見守りSOSネットワーク」事業に関する協力団体として、「美祢市自動車試験場」で業務を行っているマツダエース（株）（P21参照）、（株）マツダE&T（P21参照）と連名で協定を締結。 b

b 協定締結式

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

東京本社、マツダR&Dセンター横浜（東京都、神奈川県）

東京本社、およびマツダR&Dセンター横浜（MRY）は、2012年度より「One首都圏」を合言葉に、連携を強め、特徴ある活動を継続的に行っています。また、マツダ車オーナー有志の方々と協働した社会貢献活動が特色です。東京本社で従業員のボランティアが増加するなど、連携の効果が表れ始めています。

地域と協働した緑化事業の推進 環境 地域

目的：生物多様性保全やMRY周辺地域との共生、地域活動に貢献する。

取り組み： 横浜市提唱の「京浜の森づくり」構想※1に賛同し、2009年6月に、MRY中庭池へ近隣に自生する水生植物を移植しビオトープを設置。トンボなど水辺の生き物に対する生息環境を整備し、自然再生・緑の拡充に取り組んでいます。また、企業と市民、行政、専門家、学生などで構成する「トンボはドコまで飛ぶか」プロジェクト※2に参画し、トンボの飛来調査を2004年から行っています。 a

2015年度実績

- 8月の3日間にわたるトンボの飛来調査に協力（調査員の目視や捕獲によりトンボの種類や飛来状況、調査地点間の移動状況などを確認。トンボは調査後リリースされます）。
- 1月に開催された「トンボはドコまで飛ぶか フォーラム 2015年活動報告」に参加し、マツダの取り組みを紹介。専門家※3より、MRY中庭池は「広い」「水深が浅く均一」「日当たりが良い」「周囲から隔絶されていて手が加えられていない」ことにより、結果として「生息する水中生物の種類が多い」という点で高く評価いただきました。

マツダR&Dセンター横浜の見学受け入れ 人材 地域

目的：地域の学校が行う人材教育に協力する。

取り組み： 地域の学校の要請に基づいて、課外授業や社会科学習支援の一環として1987年の開設以来、見学受け入れを行っています。

2015年度実績

- 1月：課外授業の一環として、地域の大学生12名の見学を受け入れ。 b

東京本社、マツダR&Dセンター横浜の社会貢献活動推進者

東京総務グループ
藤高 浩一

R&D技術管理本部
岡 康治

a ビオトープでトンボの飛来調査

京浜の森ロゴマーク

b 見学受け入れ

※1 横浜市は2005年から、京浜地区の企業の緑地や市民に公開されている施設を、地域の重要な財産ととらえ、公共の緑や水辺などとあわせて、企業・市民などと行政が協働して緑の拡充・活用を推進し、未来に引き継ぐ京浜の森づくりを提唱しています。

※2 緑の豊かさの指標となるトンボの生息状況・移動状況を調べることで、企業の緑地が生き物の生息環境として重要な役割を果たすことを検証するもの。同プロジェクトによる10年間の調査記録によれば企業緑地が果たす里山的役割などが分かってきました（トンボでつなぐ京浜の森-10年の記録-2013年3月）。

※3 東京農業大学 昆虫学研究室 田口正男客員研究員（農学博士）。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

クルマを通じて子どもたちと交流 地域
(オープンカーと遊ぼう!2015／サンタが街にやってきた!2015)

目的：児童養護施設の子どもたちにクルマの楽しさを伝え交流を深める。

取り組み：マツダ車オーナー有志の方々とマツダ従業員ボランティアが共同で、主に横浜・川崎市内の児童養護施設に入所している子どもたちのために、地域貢献活動を行っています。
ドライブを通してクルマの楽しさを伝え、有意義なひと時をすごしてもらおうと、2007年から「オープンカーと遊ぼう!」を開催。また、2003年にマツダの発案で始まり、現在は神奈川県を中心とした19の企業・団体と協働で運営している「サンタプロジェクト」に毎年参加しています。

2015年度実績

- 11月開催の「オープンカーと遊ぼう! 2015」にマツダ従業員ボランティア有志およびマツダ車オーナーに加えて、特定非営利活動法人「心魂(こころだま)プロジェクト※1」のメンバーを含め、総勢30名が参加。施設の子どもたち(職員含む)と共に横浜ベイブリッジを中心に約20kmのコースをロードスターでツーリング。続いてMRYで「心魂プラネタリウムミュージカル」を上演。
- 12月開催の「サンタが街にやってきた!2015」にマツダ従業員ボランティアおよびマツダ車オーナーを含め総勢700名以上が参加。参加者全員がサンタクロースやトナカイに扮して、それぞれの企業・団体が工夫を凝らして活動。マツダチームはクリスマス仕様に装飾したロードスター、デミオ、アテンザで「ドライブサンタ」と「訪問サンタ」にわかれて活動。「ドライブサンタ」は、母子寡婦会や児童養護施設などの皆さまが同乗し、横浜みなとみらい21周辺をドライブ。「訪問サンタ」は、横浜市内の児童養護施設など4カ所を訪問し、プレゼントの手渡しや、合唱、ダンスなどをして交流。 c

c 参加者全員がサンタクロースやトナカイに扮して記念撮影

第31回、32回「ロードスターチャリティフリーマーケット」に協力 地域

目的：MRYを開放しマツダ車オーナー有志の方々の社会貢献活動に協力する。

取り組み：有志の方々が主催する「ロードスターチャリティフリーマーケット」の会場としてMRYを提供すると共に、マツダ従業員ボランティアがブースを出展しています。

2015年度実績

4月と10月に「ロードスターチャリティフリーマーケット」を開催。入場者数約560名(従業員ボランティア：26名)。マツダブースでは、従業員の協力も得て集めた日用品やマツダグッズの販売、広島名物のお好み焼き販売を行うなどしてイベントに協力(収益は、東日本大震災義援金として日本赤十字社へ寄付および交流活動の費用として活用)。 d

d MRYを会場にしたフリーマーケット マツダブースではマツダグッズも出品

近隣連合自治会の防災訓練に協力 地域

目的：定期的な防災訓練に協力し、地域の非常時に備える。

取り組み：2008年11月に、神奈川区役所やMRY近隣の自治会などと防災協定※2を締結し、2009年3月には京浜臨海部の11社の企業と地域の自治会・町内会などから組織する「神奈川区臨海部防災協議会」に加わり、定期的な合同防災訓練の実施など、地域の防災力向上に向けた取り組みを実施しています。

2015年度実績

3月に第11回定期合同防災訓練を実施。消火器の取り扱い、応急手当、AED※3操作を習得(地域町内会含め総勢約150名参加)。 e

e 消火器の取り扱い方法習得

※1 「生きる喜び」を「表現することを通して共有する」という理念の下、ミュージカル俳優をはじめ、作曲者、演出家、指揮者、振付師、ヨガインストラクター、和楽器奏者、武術家、舞台監督などそれぞれの分野で活躍してきた多種多彩なアーティスト、パフォーマーが集った団体。2014年の「サンタプロジェクト」にご参加いただいた縁で「オープンカーと遊ぼう!2015」に協力いただきました。
※2 防災拠点へ避難するまでの一時避難場所としてMRY施設を提供。
※3 AED(自動体外式除細動器):血液を流す機能を突然失った心臓に電気ショックを与え、正常な動きに戻すための医療機器。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

北海道剣淵試験場（北海道）

北海道上川郡剣淵町にある総合自動車試験場である北海道剣淵試験場は冬期の1月から2月まで耐寒試験を行っています。1990年の開設以来、特に地域貢献に重点を置き、「けんぶち絵本の里づくり」活動※1への協賛や自動車試験場の特徴を生かした活動を継続的に行っています。

第27回北海道剣淵試験場での交流イベント開催 地域

目的：剣淵町民の皆さまとの交流を通じ、感謝の気持ちを伝える。

取り組み：毎冬、試験員を温かく迎え入れてくださる剣淵町民の皆さまに感謝し、1990年から毎年試験場を開放し、町民との交流イベントを実施しています。

2015年度実績

1月に交流イベントを開催。過去最多の約400名の町民の方々が来場。

- 雪上での催し（ジムカーナ大会、エアーボードレース、おもちゃすくいなど）。
- ビンゴ大会の実施。「ビンゴ」の方に広島の名産物などをプレゼント。 a
- 試験場での交流イベントに併せて、剣淵町道の駅において広島物産展※2の開催。
- その他、剣淵町の高校生6名を広島に招待しての三次試験場50周年イベントへの参加やマツダミュージアム見学実施（9月）。

a ビンゴゲームの景品をプレゼント

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 「けんぶち絵本の里づくり」活動の拠点「絵本の館」で開催される、「けんぶち絵本の里大賞」や「けんぶち絵本の原画展」を支援。
※2 本社（広島）においては、1988年より毎年秋に「剣淵町物産展&北海道うまいものフェア」を開催し、剣淵町産のジャガイモやカボチャ、お米などの特産物を販売し交流している。

グループ会社

中学生の職場体験の支援（マツダエース（株））

環境 人材 地域

目的：職場体験の受け入れを通じて、次世代を担う人材の勤労観、職業観の育成を支援する。
取り組み：情報技術サービス、建設・不動産、保険、物品販売などさまざまな業務を行うマツダエースでは、2008年より広島県内の中学生を対象に職場体験を受け入れています。

2015年度実績

5月、8月に中学生、高校生、計7名を対象に保険サービス部や本社売店などで職場体験を実施。働く上での心構えや挨拶、話を聞くことの重要性などについてアドバイスし、事務、ドリンク類の運搬・陳列などの体験を提供。 a

その他、留学生への奨学金支援、「美祢市認知症等高齢者徘徊・見守りSOSネットワーク」協定の締結（マツダ（株）（P17参照）、（株）マツダE&Tとの連名）、献血、街頭募金活動、地域イベントへの参加および寄付、ペットボトルキャップの収集、清掃ボランティアなどを実施。

a 中学生の職場体験

小中学生の社会見学（マツダロジスティクス（株））

環境 安全 人材 地域

目的：港湾物流の見学を通じて、海事への関心と理解を深めてもらう。
取り組み：自動車および部品輸送を行うマツダロジスティクスでは、広島県内の小中学生などを対象に、港湾物流および施設の社会見学会を2010年より開催しています。

2015年度実績

小学生を対象に港湾施設の見学会を実施※1し、2校133名が参加。大型設備（ガントリークレーンなど）を使ったコンテナターミナルの効率的な荷役作業や自動車専用船の自走荷役作業などの実演を近くで見学しながら、港湾物流の魅力的な技術と役割を説明。さらに、一般公募の親子、特別支援学校生、留学生を対象とした同様の見学会を広島みなと振興会と共同で開催（87名が参加）。 b

その他、地域イベントなどへの参加および寄付※2、広島市就労支援センター※3や留学生の支援、交通安全啓発※4、献血、竹林整備※5や清掃ボランティアなどを実施。

b 小学生対象港湾施設見学会

パソコンの寄贈（（株）マツダE&T）

環境 地域

目的：障がい者の自立を支援する。
取り組み：福祉車両を含む特装車の製造と開発を行うマツダE&Tでは、「福祉」をキーワードに障がい者の自立支援を積極的に推進しています。その一環として、社内で使わなくなったパソコンを寄贈しており、寄贈先では人材育成、社会への復職のイメージづくりなどに活用いただいています。

2015年度実績

広島市などの社会福祉協議会を通じて、4団体へ4台のパソコンを寄贈（2011年から継続実施、累計53台寄贈）。 c

その他、「美祢市認知症等高齢者徘徊・見守りSOSネットワーク」協定の締結（マツダ（株）（P17参照）、マツダエース（株）との連名）、第13回学生フォーミュラ大会（主催：（公社）自動車技術会）への寄付・運営スタッフ派遣、地域イベント（三次きんさい祭（P13参照）や北海道剣淵試験場での交流イベント（P20参照）など）への参加、福祉団体への寄付・寄贈（使用済み切手・ハガキ、不要カレンダー・手帳）、ボランティア活動などを実施。

c パソコン寄贈

※1 （公社）中国海事広報協会／広島県広島港湾振興事務所。
※2 交通整理などの運営スタッフ派遣や駐車場などの施設開放含む。
※3 広島市就労支援センターと連携。
※4 山口県周南警察署とともにマツダロジスティクス輸送協力会が周南市駅前に設置した交通安全テント村で安全チラシとティッシュをドライバーに配布。
※5 身近な緑地を保護する広島市「ふれあい樹林」制度を利用。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

リサイクル品の収集（マツダパーツ（株））

環境 地域

目的：リサイクル品収集を通して社会貢献を行う。

取り組み：自動車部品の提案型営業および供給サービスを行うマツダパーツでは、さまざまなリサイクル品の収集を継続して行っています。2013年度から一部の支社で開始し、2014年度からは全社の取り組みとして実施。収集したリサイクル品は、財団法人やNPOに寄贈しています。

2015年度実績

全従業員が参加できるリサイクル品の収集を実施（使用済み切手・ペットボトルキャップ）。 d

d 使用済み切手の収集

障がい者への支援（倉敷化工（株））

環境 地域

目的：障がい者一人ひとりの社会的自立を目指した取り組みを支援する。

取り組み／2015年度実績

自動車部品製造販売を行う倉敷化工では、障がい者の社会的な自立を理念として設立された重度障害者多数雇用事業所から、倉敷化工で使用する部品を積極的に購入しています。また、福祉団体などへの協賛を行うほか、会社周辺の清掃に参加。 e

e 障がい者の支援

国際交流フットサルリーグに協賛（（株）日本クライメイトシステムズ）

人材 地域

目的：地域に在住する外国人と地域社会の交流促進を推進する。

取り組み：自動車部品製造販売を行う日本クライメイトシステムズ（JCS）は、国際交流の促進および多文化共生を目指した「東広島市国際交流フットサルリーグ」を設立当初から支援し、外国人従業員でチームを編成して参加しています。さらに、JCSが会長および事務局を務める「東広島マツダ会」（東広島市の各企業集合）として、資金協力をはじめとする運営協賛を行っています。 f

2015年度実績

運営資金協力に加え、月1回のフットサルリーグ戦開催や年2回の交流イベントとして「東広島マツダ会杯」の企画・開催を通じて、国際交流を促進。その他、中学生対象の職場体験受け入れ、児童自立支援施設での在学者を対象とした講演会実施、東広島マツダ会を通しての福祉施設入所者との交流や地域のイベントへの運営協力、日本赤十字社などへの金銭寄付、東広島商工会議所青年部メンバーとして、西条酒祭りの企画・運営などの地域活動に参画。

f 国際交流フットサルリーグ

地域活性化の連携協定を継続締結（ヨシワ工業（株））

環境 人材 地域

目的：地域と会社の連携により相互の成長を目指す。

取り組み：自動車部品製造販売を行うヨシワ工業は、工場のある島根県吉賀町と2007年6月に、「地域と企業の連携（一社一村しまね※1）」協定を締結し、地域復興を支援しています。

2015年度実績

「一社一村しまね」協定を継続し、吉賀町の地域産業への波及効果や、地域産品の顧客増、雇用の拡大に貢献。一方で、ヨシワ工業にとっては地域資源を活用したビジネスの展開、従業員への安心で安全な食材の提供、従業員と家族の福利厚生、安定した従業員採用などにつながり、両者にとって多くのメリットを享受。

その他、毎年開催される吉賀教育委員会主催「よしか・夢・花・マラソン」の支援、小中高生の工場見学受け入れ・鋳物教室開催、地域イベントなどに対する研修施設開放、就業時間中の献血実施。また、広島県の海田町公衆衛生推進協議会主催「空き缶等散乱ごみ追放キャンペーン」などをはじめとした市町村主催の地域環境美化活動への参加や会社周辺清掃を実施。 g

g よしか・夢・花・マラソン開催（ヨシワ工業協賛）

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 島根県が推進する取り組みで、県内の地域（市町村）が特定の企業や団体と、対等なパートナーシップのもとに交流を促進し、経済的な効果を含めた地域振興を図ることを目的としています。

AEDを地域のために供用（(株)マツダプロセシング中国） 環境 地域

目的：AED※1を設置し、地域の非常時に開放する。

取り組み：納車点検・架装を行うマツダプロセシング中国は、2008年にAEDを設置し公共用として使用できるよう消防署への登録を行っています。定期的にAEDの使用講習を実施し、地域の非常時に即時に協力できるよう備えています。

2015年度実績

AEDの設置を継続し、10月の社内防災訓練では、非常時に従業員がAEDを実際に活用できるよう、全従業員に対して使用講習を実施。 h

その他、献血、夏休みのラジオ体操会場として駐車場の開放、地域イベントへの協賛、車椅子寄贈のためのプルタブ収集、広島安芸商工会を通じてのペットボトルキャップ寄贈（2007年10月から継続実施、累計約13万個）、会社周辺清掃などを実施。

h 社内防災訓練でAEDの操作を確認

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 AED（自動体外式除細動器）：血液を流す機能を突然失った心臓に電気ショックを与え、正常な動きに戻すための医療機器。

販売会社

全国にある(国内の販売会社)※1では、事業活動を行っているそれぞれの地域のニーズに即した取り組みを継続的に行っています。

森林保全活動・美化活動・リサイクル品の回収 環境 地域

目的：森林保全、美化活動やペットボトルキャップ収集などを通じて環境保全に貢献する。

取り組み／2015年度実績

- 森林保全
  岡山マツダでは、「ふじの森」※2森林保全活動の取り組みに賛同し、地元企業・団体とともに2013年から参加。地域の方々に利用される森林への再生に取り組むため、広葉樹の除伐や、遊歩道の整備を行っています。10月、森の遊歩道周辺の除伐に40名が参加(全体では総勢110名)。作業後に実施されたお子さま対象ネイチャークラフト教室に協力。 a
- ビーチクリーン活動
  千葉マツダでは、近隣住民への感謝と、美しい街を維持するための地域貢献の一環として清掃活動を2014年度から実施しています。2015年6月、環境月間に合わせ新入社員※3 22名と本部スタッフ4名が参加しビーチクリーン活動を実施しました。 b
- ボランティア・サポート・プログラム
  神戸マツダでは、国土交通省とボランティア・サポート・プログラム※4の協定を締結し、従業員による美化活動を行っています。2015年度は、本館ビル前国道の植え込みに季節ごとの花を植え、地域の美化活動に貢献しました(延べ130名参加)。 c
- 美化活動
  各地の販売会社で環境美化活動(地域清掃、花壇設置など)を実施しています(14社)。北海道マツダ※5、甲信マツダ※6、広島マツダ※7では、活動に対し表彰受賞や地域からの感謝状を受領しました。
- ペットボトルキャップの収集
  発展途上国における治療のため寄付を実施(9社)。

交通安全の推進、交通遺児の支援 安全 地域

目的：カーブミラーの清掃や交通安全の呼びかけなどを通じて交通安全に貢献する。

取り組み／2015年度実績

- カーブミラーの清掃
  岡山マツダでは、毎年、春の交通安全県民運動期間に合わせ、交通安全に寄与する活動として全店舗で各近隣の道路標識・カーブミラーの清掃や道路・歩道などの清掃を行っています(交通安全対策推進協議会と連携)。2015年度は、総勢400名が参加。また、活動に必要な機器や車両を充実させました。 d
- 交通安全啓発活動
  函館マツダでは、毎年、秋の全国交通安全運動期間に合せて、函館西地区安全運転管理者協会と協働し交通安全啓発特装車両パレードに参加しています。2015年度は、マツダ ロードスターで参加、函館西警察署を出発し函館市内をパレードしました。また、北海道マツダ販売※8をはじめ各地で交通安全啓発活動(立哨、近隣パトロール、交通安全イベント参加、ロードコーン寄付)を実施しています(12社)。 e
- 交通遺児支援のための寄付
  会社、および従業員有志による寄付やアイドリングストップ機構「i-stop」搭載車両販売台数に応じた寄付を実施(3社)。
- 敷地の一部を開放(歩道や陸橋通行用の場所として提供)(3社)。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

a 森林保全活動(岡山マツダ)

b ビーチクリーン活動(千葉マツダ)

c ボランティア・サポート・プログラムによる美化活動(神戸マツダ)

d 店舗近隣のカーブミラー清掃(岡山マツダ)

e 交通安全啓発特装車両パレード(函館マツダ)

※1 販売会社名は、以下(株)などを省いた略称で記載(P24-P25)
※2 「ふじの森」はお取引先さま主催。岡山県の「企業との協働の森づくり事業」においてお取引先さまが倉敷市と協定を締結。
※3 新入社員が社会貢献意識を持つことを目的とし、教育プログラムの一つとして実施。
※4 地域住民、地元企業および道路管理者が協力して道路の清掃美化活動を行い、地域住民共有の道路への愛着を育てるとともに、道路利用者のマナー向上を啓発することを目的としています。
※5 町内会より感謝状受領。
※6 第628回小さな親切実行賞(団体)受賞(主催:(公財)「小さな親切」運動本部、2016年1月25日発表)。
※7 広島市環境美化功労者表彰において環境美化永年活動5年表彰受賞。
※8 自動車販売連合会主催の交通安全人の波運動に参加。北海道警察本部より自動車販売連合会に感謝状贈呈。

社会科学習支援・職場体験支援・講師派遣・インターンシップ受け入れ 人材 地域

目的：働くことの重要性や、働くことの素晴らしさについて考えてもらう。

取り組み／2015年度実績

- 小学生対象学習プログラム実施
  東京マツダ販売では、2013年度から毎年、夏休み期間中に小学生を対象とした環境や安全について学ぶ学習プログラムを実施しています。理科や科学技術の楽しさを子どもたちに伝えることを目的としています。2015年度のテーマは、環境教育「クルマの形と空気のひみつ」※1（約40名参加）。 f
- 社会見学や職場体験受け入れ
  関東マツダでは、毎年、地域の小学生の社会見学や中学生の職場体験の受け入れを行っています。2015年度は、小中学生の見学受け入れ（7店舗・約100名）のほか、中学生の職場体験受け入れ（4店舗・約30名）を行い、ショールーム・工場での車検や整備の見学、洗車体験などを実施しました。 g
  その他、各地で地域の小中高生、大学生、専門学校生、特別支援学校生の見学、職場体験・インターンシップ受け入れ、講師派遣、セミナー、出前授業などを実施（25社）。
- 新聞社発行の写真ニュースの提供により地域の小学校の学習を支援（1社）。
- 整備士資格取得のための奨学金制度を設置（2社）。

地域の活性化支援 地域

目的：施設開放、地域イベントへの参加や献血などを通して、地域の活性化に貢献する。

取り組み／2015年度実績

- 災害緊急待避所としての貢献
  災害緊急待避所として登録するとともに、地域の避難訓練に協力しています（2社）。神戸マツダでは、6月、地域の保育所の津波避難訓練に協力しました。 h
- 子育てや子どもの安全にかかわる活動に登録・参加※2（5社）。
- 地域のお祭りへの協賛や、敷地内施設開放（駐車場やトイレなど）により地域のイベントを支援（12社）。関東マツダでは、サマーフェスタなどのイベントに、7店舗が協賛しました。 i
- スポーツ大会・イベント（含：国民体育大会）および地元スポーツチームの支援（車両提供や寄付）（7社）。
- 「第34回マツダ杯争奪山口少年サッカー大会」（2日間）を後援（1社）。
- AED※3提供協力施設として登録、設置（4社）。
- 盲導犬育成支援のための寄付（1社）。
- 献血活動への参加（駐車場などの施設開放含む）（8社）。広島マツダ※4では、広島県知事より感謝状受領。
- がん検診を推進するためのポスター展示、PR用パンフレット配布を実施（2社）。
- 東日本大震災復興支援（ボランティア、日本赤十字社などへの寄付、車両提供、マツダオールスターゲームへの野球少年団招待）（3社）。

f 環境教育「クルマの形と空気のひみつ」（東京マツダ販売）

g 職場見学（関東マツダ）

h 避難訓練支援（神戸マツダ）

i 地域のお祭り支援（関東マツダ）

※1 マツダ（株）がプログラム開発し提供（監修：（公財）日本科学技術振興財団・科学技術館）。
※2 子ども110番の店、上田市の「赤ちゃんステーション」として登録、広島県の子育て応援イクちゃんサービス参加店に加入など。上田市の「赤ちゃんステーション」：地域全体で安心して子育てできる環境整備の一環として、赤ちゃん連れで気軽に外出できるように、オムツ替えや授乳ができる場所として現在約70カ所に設置。
※3 AED（自動体外式除細動器）：血液を流す機能を突然失った心臓に電気ショックを与え、正常な動きに戻すための医療機器。
※4 広島県献血推進功労者推進事業団体の部で広島県知事より感謝状受領。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

マツダ財団

公益財団法人マツダ財団は、「科学技術の振興と青少年の健全育成のための助成などを行い、世界の人々が共に繁栄を分かち合い、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与すること」を目的に、1984年にマツダが設立した助成財団です。2016年3月31日までの助成総額は、15億8,370万円（2015年度は、5,200万円を助成）。

科学技術振興のための助成や事業 環境 人材 地域 財団

目的：調和のとれた科学技術の向上を通じ、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与する。

取り組み：

- 研究助成：科学技術に関する基礎および応用研究に対する助成を実施（1985年～）。
- 事業助成：研究者および民間の非営利団体※1が中国地方で開催する小中高生を対象とした「科学体験」に関する研究会などへの助成を実施（1985年～）。
- 科学わくわくプロジェクト：青少年の科学離れへの対応として、広島大学と連携し、同大学の知的資源を活用した地域貢献プログラムとして実施（2003年～）。

2015年度実績

- 研究助成：科学技術の発展に寄与する優れた25件の研究に総額3,000万円を助成。加えて、助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした4件の研究に対し、マツダ研究助成奨励賞を授与し、副賞として研究助成金50万円をそれぞれ追加助成。 a
- 事業助成：「科学体験」に関する事業15件に総額200万円を助成。 b
- 科学わくわくプロジェクト：中学生を対象に年6回の「ジュニア科学塾」（塾生24名）、中高生を対象に年6回の「サイエンスレクチャー（出張・出前型講座）」、小学校の先生を対象に「小学校の先生のための理科ひろば」を実施（59学級、約1,610名参加）。 c

a マツダ研究助成 広島大学での贈呈式

b マツダ事業助成
子供理科体験教室～電気を作って遊ぼう～

c 科学わくわくプロジェクト
「ジュニア科学塾」の入塾式

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 2015年度より、民間の非営利団体を助成対象として追加。

青少年の健全育成のための助成や事業 環境 人材 地域 財団

目的：青少年の健全な育成、あるいは青少年期における自らの学習への支援を通して、心豊かに生きることのできる社会の実現に寄与する。

取り組み：

- 研究助成：「青少年の健全育成」に関わる市民活動の活性化に役立つ実践的な研究に対する助成を実施（1985年～）。
- 市民活動支援：青少年の健全育成や地域社会づくりのための諸活動を行う、広島県および山口県の民間非営利活動の支援を実施（1985年～）。
- 感動塾・みちくさ：子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することに取り組む体験活動を実施（1998年～）。
- スタートラインプロジェクト：青少年をめぐる社会的課題解決への取り組み。広島で子どもシェルター（緊急避難場所）および自立援助ホームを開設・運営しているNPO法人ピピオ子どもセンターと連携し、被虐待児などの成長や、それを支えるスタッフの能力開発、広報活動の充実を支援する事業を継続実施（2013年～）。
- 大学講義：広島県の大学に対する寄付講義を実施（1995年～）。
- 講演会：青少年健全育成などに関して、地域の皆さまと共に考える場とするため、著名人を招いた講演会を開催（1984年～）。
- 調査・研究：青少年をめぐる社会的課題に対応していくための調査・研究を、随時実施。

2015年度実績

- 研究助成：青少年の健全育成に寄与する優れた6件の研究に総額500万円を助成。
- 市民活動支援：青少年の健全育成に寄与する優れた30件の活動に総額800万円を支援（東日本大震災復興支援活動2件を含む）（P10参照）。 d
- 感動塾・みちくさ：小学生のための体験活動「ふしぎ 発見 感動体験～光とエネルギー～」、「身近なエネルギーで遊ぼう!!」「環境・生物多様性」を実施（149名参加）。 e
- スタートラインプロジェクト：1月、ピピオ子どもセンター設立5周年&スタートラインプロジェクト発足3周年記念シンポジウム「居場所のない子どもたちのスタートラインづくりのために」を開催（70名参加）。同時に、ピピオ子どもセンター紹介DVDを製作し今後の活動の発展を支援。また、例年通り、広島県内の大学生などに対してボランティアスタッフ養成講座を年8回実施（16名参加）。 f
- 大学講義：安田女子大学で、2日間の集中講義、夏休み中にボランティア実習を行う「ボランティア活動（単位互換科目）」を実施（14名参加）。
- 講演会：ジャーナリスト・東京工業大学リベラルアーツセンター教授の池上彰氏を招き、「学び続ける力」をテーマに、広島国際会議場で開催（約1,400名が聴講）。 g
- 調査・研究：若者自立支援事業の実施へ向けての調査・研究「広島20～30代住民意識調査」（2014年度実施）の結果を、調査研究報告書にまとめて刊行し、マツダ財団HPで一般公開。併せて、報告書を学識者・行政関係者・市民活動団体他に送付。また、当調査結果を基に、若者などを交えたディスカッションを、安芸郡府中町、三次市にて実施。

d 市民活動支援贈呈式

e 青少年野外活動センター「身近なエネルギーで遊ぼう!!」ソーラーカー製作・競技

f ピピオ子どもセンター設立5周年&スタートラインプロジェクト発足3周年記念シンポジウム

g 池上彰氏講演会「学び続ける力」

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

海外の主な取り組み

米国

マツダノースアメリカンオペレーションズ(MNAO・カリフォルニア州オレンジ郡)は各地域社会のニーズに対応した多様な活動を支援しています。“Zoom-Zoom”の精神に満ちたアプローチにより、子どもや女性の健康、災害復旧のための投資を活発に行い、その社会貢献活動においてお客さま、従業員、ディーラーを積極的に支援しています。また、米国各地で地域社会改善のための創意工夫に富むプログラムを支援することで、より良い未来を築くことを目的に、マツダ財団USA(MFUS)を通じた活動を支援しています。

プロジェクト・イエロー・ライトの支援 安全 人材 地域

目的：注意力散漫な運転の危険性に対する意識を高める。

取り組み：MNAOは2012年から若年層に対する安全運転促進を目的としているプロジェクト・イエロー・ライト※1の活動を支援しています。プロジェクト・イエロー・ライトは毎年十代の若者から、運転中にスマートフォン操作や文字入力をしないよう若者に呼びかける60秒の公共広告映像作品を募集しています。また、マツダ・モータースポーツ※2に関わる若いレーサーたちが、若者たちに運転中の携帯電話操作の危険について啓発しています。

2015年度実績

世界青少年交通安全月間の一環として、米国運輸省 (DOT)、マツダ・モータースポーツ、広告協議会、青少年の安全を守る全国組織であるNational Organizations for Youth Safety (NOYS)は、プロジェクト・イエロー・ライト第4回スカラシップ・コンテストのビデオ作品受賞者として高校生と大学生6名、壁面広告作品受賞者として2名を発表しました。受賞者には、マツダ・モータースポーツが提供した奨学金が贈られました。100名以上のマツダレーサーたちは、同プロジェクト促進のためのロゴをレースカーやドライバースーツに掲載しました。 a

レーシング・アクセラレート・クリエーティブ・エデュケーション・プログラム 安全 人材 地域

目的：さまざまな視点で、自然科学、技術、工学および数学 (STEM)を勉強することができるよう奨励する。

取り組み：2014年から、MNAOは世界的なプロトタイプレーシング※3のプログラムを活用し、今後の成長や成功にとってSTEM教育がどれだけ大切かを26,000名以上の児童・生徒たちに教育しています。

2015年度実績

次世代の優秀なSTEM人材に刺激を与え、勇気づけるため、MNAOは双方向の学習フォーラム、「レーシング・アクセラレート・クリエーティブ・エデュケーション・プログラム」(R.A.C.E.)を実施しました。マツダR.A.C.E.STEMプログラムはマツダ・モータースポーツの全面支援により行われています。マツダ・モータースポーツは、チュードル・ユナイテッド・スポーツカー・チャンピオンシップ※4の予定に合わせてチームが移動する都度、アメリカとカナダの26の小学校、中学校、高校にて合計46回のプレゼンテーションを行い、6,000名以上の児童・生徒たちに好影響を与えました。

MNAOの社会貢献活動推進者

社長兼CEO 毛籠 勝弘
(マツダ財団USA理事長)

a シカゴでのプロジェクト・イエロー・ライト

※1 プロジェクト・イエロー・ライト／ハンター・ガーナー奨学金は交通事故により若くして亡くなったハンター・ガーナー氏に敬意を表して始まった非営利団体で、公共広告機構、国家道路交通安全局(NHTSA)、National Organizations for Youth Safety (NOYS)、U-ホール、クリア・チャンネル・アウトドア・アメリカおよびマツダとパートナーシップを結んでいます。奨学金に加えて、優勝したビデオ/デザインは、公共広告機構により公共広告として全米に放映され、優勝した壁面広告デザインはクリア・チャンネル・アウトドアにより全米のデジタルサイネージに表示されました。

※2 MNAOでは2006年にMAZDASPEEDモータースポーツ・デベロップメント・ラダーを設立し、グラスルーツ・レーサーがより高いランキングを獲得できるよう支援しています。

※3 レース仕様の車両を利用したレース。

※4 アメリカの代表的なレース、Grand Amシリーズとアメリカン・ルマンシリーズ(ALMS)が統合され、2014年より始まったレースシリーズです。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

マツダ・ドライブ・フォー・グッド・キャンペーンを通じた寄付 地域

目的：地元および全米の慈善団体の活動を支援する。
取り組み：MNAOは、販売台数に応じた社会貢献キャンペーン“マツダ・ドライブ・フォー・グッド”を実施しています。
2015年度実績
ディーラーとの共同出資取り組みとなる冬の募金イベント、マツダ・ドライブ・フォー・グッドが3年目を迎え、マツダの新車が1台売れる、もしくは、リースされる度に150ドル寄付しました。購入者は、MNAOが連携する全米対象の4つの慈善団体、セント・ジュード・チルドレンズ・リサーチ病院、米国赤十字社、米国心臓協会、MFUSに加え、各地域のディーラーが提案した43の地域的な慈善団体のうちの1つを寄付先として選択できるようにしています。MNAOは、ディーラープログラム開始による活動の拡大やNBCユニバーサル※1とのメディア協力を通しての認知度向上に努めました。
MNAOはまた、新車が試乗される度に1時間の奉仕活動を行うというユニークな社会貢献を併せて行いました。MNAOや米国各地のディーラー従業員は、2016年を通して、72,000時間のボランティア活動を各地域のさまざまな慈善活動の中で行っていく予定です。 b c
さらに、MNAOはコンフェッティ財団※2へ寄付を行いました。この協力は、マツダ・ドライブ・フォー・グッド・キャンペーンとNBCユニバーサルによる協力活動の一環として行われました。

米国赤十字社との長期にわたるパートナーシップ 地域

目的：自然災害の被災者のための救援活動と復旧活動を支援する。
取り組み：MNAOは米国赤十字年間災害支援プログラム（ADGP）のメンバーとなりました。
2015年度実績
米国赤十字社との長期にわたるパートナーシップに基づいて、MNAOはADGPへの年間拠出額を増やし、寄付およびマツダ車寄贈を通して、自動車製造会社として初めて、100万ドル寄付者のメンバーとなりました。MNAOはカリフォルニア州オレンジ郡の米国赤十字社より、コミュニティ・パートナー・アワードを受賞しました。

さまざまな慈善活動への支援 地域

目的：全米各地の慈善団体および地元カリフォルニア州オレンジ郡での地域社会のための活動を支援する。
取り組み：MNAOはさまざまな慈善活動に参加しています。
2015年度実績

- 6月、マツダ・ドライブ・フォー・グッドの慈善活動の一環として、従業員のボランティア活動や寄付を通してワーキングワードローブに協力し、地域の人々の就職および職業訓練を支援しました。 d
- 7月と9月に、アーバイン警察協会が主催する野外コンサートおよび例年の追悼式を支援するためにそれぞれに寄付を行いました。
- 7月と9月に、オレンジ郡消防士協会とランチョ・キャリロ消防署のそれぞれに寄付を行いました。
- 7月、MFUSへの継続的支援に加えて、先天性心疾患研究所および小児心臓移植研究所支援のため、資金集めの催しと自動車展示会をミシガン大学およびC.Sモット小児病院とともに開催しました。加えて、プロジェクト・アクセスおよび地域社会の約200名の経済的に恵まれない子どもたちに、適切な文房具を提供し、クラスで成功し彼らの学習能力を高めることを支援しました。 e

b 米国心臓協会でのドライブ・フォー・グッド・キャンペーンの慈善活動

c ドライブ・フォー・グッド・キャンペーンの慈善活動

d ワーキングワードローブでの奉仕作業

e プロジェクト・アクセスの支援

※1 NBCユニバーサルは、世界の観客に向けて、エンターテイメントやニュース、情報を展開、製作することにおいて世界でも有数のメディア・エンターテイメント会社の1つです。コムキャストの子会社で、ニュースとエンターテイメントテレビ・ネットワーク、トップ映画会社、重要なテレビ制作事業部門、主要なテレビ局グループ、世界的に有名なテーマパーク、および一連の主要なインターネット事業を所有し、経営しています。
※2 コンフェッティ財団は病院で誕生日を迎える子どもたちに誕生日会を提供する非営利団体です。誕生日会は直接の治療にはあたりませんが、良い気分転換の場として喜ばれています。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

- 8月、金銭的援助に加え、約20名の従業員がビーチ清掃をおこなうことで、サーフライダー財団を支援しました。
- MNAO従業員は家庭で余っている食料をフードバンクに提供しました。また、いくつかの部門では、オレンジ郡のセカンド・ハーベスト・フード・バンクにてボランティア活動を行いました(MFUSの全米フードバンクの項目参照)。
- MNAOは、マツダ・レースウェイと協力して動物たちを助け、次の飼い主が見つかるまでの施設や食べ物を提供し世話をしているモンテレー郡動物虐待防止協会(SPCA)※1へ寄付を行いました。 f g

マツダ財団USA

マツダ財団USA(MFUS)は1990年9月に設立され、教育、環境保護、社会福祉、異文化交流の取り組みへの助成を行っています。1992年以来、1,100万ドルを超える支援を行っています(2015年度は約150万ドルを助成)。

学生自然保護協会(SCA)の支援 環境 人材 財団

目的:環境保護と青少年教育を支援する。
取り組み:MFUSは、米国の学生自然保護団体であるSCAと連携し、環境保護と青少年教育促進を目的とした「セイブ・アワー・アメリカン・リソース(SOAR)・プログラム」活動を1998年から実施しています。
2015年度実績※2
SOARを通じて、全米50州および、ワシントンD.C.の自然・文化保護アシスタントの活動を支援しました。
SOARインターン生は、次のようなさまざまな保護、復元・環境保護プロジェクトを行いました。絶滅危惧種の保護、大気・水質の測定、未開拓地域のパトロール、環境教育プログラム、考古学上の発掘作業や調査、記念碑や遺跡の修復および観光客への説明や案内プログラムなど。これらのインターンは、2015年度の活動で延べ21,000時間以上を保護活動に費やしました。
MFUSはまた、SCAによる米国退役軍人のためのプログラムを支援しました。SCAは、市民生活に戻る退役軍人に、新しく自然保護分野での仕事復帰の機会を提供しています。

オペレーション・リバウンド・プログラムを支援 地域 財団

目的:負傷を克服し、積極的なライフスタイルを続けようとする退役軍人を支援する。
取り組み:2011年以来、MFUSは障がい者アスリート財団(CAF)を支援しています。オペレーション・リバウンド・プログラムは、身体的障がいを被った米軍人、退役軍人、緊急時対応要員のために最高の運動競技と体力増進プログラムを提供しています。
2015年度実績※2
MFUSの助成金は、補装具や指導、トレーニング、競技会参加費用などに充てられました。さらに、MFUSは、CAFが10月に開催したサイクリングイベント、10周年ミリオン・ダラー・チャレンジ(MDC)の冠スポンサーになりました。このイベントを通して集まった募金は、CAFの使命である障がい者選手の支援のため、スポーツ用補装具、トレーニングや競技会への参加費用、メンター指導やスポーツクリニックの補助金として使われました。 h i

f モンテレー郡のSPCAへの寄付

g マツダ・モータースポーツのレーサーと犬

h MDC10周年

i MDC10周年

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 モンテレー郡動物虐待防止協会(SPCA)とは、1905年からモンテレー郡の動物と人々を支えている、非営利の独立した、寄付だけで成り立っている動物愛護協会です。
※2 2014年10月～2015年9月.

学生支援のためのさまざまな奨学金の提供 人材 財団

目的：教育を受ける機会を提供する。
取り組み：MFUSは、少数民族の学生、自動車工学に興味のある学生のための活動を行っているさまざまな組織との提携関係を維持しています。
2015年度実績※1

- MFUSは、自動車研究だけでなく、輸送や最新の製造分野にも焦点を当てた米南東部の先進的教育プログラム「クレムゾン大学国際自動車研究センター（CU-ICAR）」を支援しています。MFUSはCU-ICARと「マツダ大学院生奨学金年次プログラム」を支援し、その助成金はクレムゾン大学で自動車工学を専攻している3名の大学院生の奨学金に充てられました。
- MFUSは、カリフォルニア大学アーバイン校の奨学金プログラムを支援し、マツダ財団研究奨学金を、ポール・メラージ経営大学院とヘンリ・サミュエリ工学研究科の5名の大学院生に提供しました。

さまざまな慈善活動への支援 人材 地域 財団

目的：全米各地の慈善団体および地域社会のための活動を支援する。
取り組み：MFUSは、社会福祉に関連した慈善活動を支援しています。
2015年度実績※1
MFUSは下記の活動を支援しました。

- マイ・スタッフ・バッグ財団
  マツダ財団、マツダ・ドライブ・フォー・グッドおよび、いくつかの地区組織をもち1998年から活動している全国組織であるマイ・スタッフ・バッグ（MSB）※2が提携し、MNAO従業員が2年目の「スタッフ・ア・ソン」※3イベントを主催し、累計500,000個のマイ・スタッフ・バッグのダッフルバッグを詰め、プレゼントしました。 j k
- 全米フードバンク
  MFUSは、オレンジ郡のセカンド・ハーベスト・フードバンク※4とデトロイト近郊のグリーナーズ・コミュニティ・フードバンクにそれぞれ助成金を交付しています。MFUSの助成金は特に、経済的に困窮している高齢者や子どものための空腹・栄養失調緩和プログラムや、休暇シーズンにおける祝いの食事を用意するプロジェクトに充てられます。この活動は重要なボランティア貢献として認められ、セカンド・ハーベストはボランティアセンターの名前をマツダ財団ボランティアセンターへ改名しました。 l
- サイエンス@OC
  特に中学生の科学教育を改善・向上させるため、サイエンス@OC※5へ助成金を交付しました。
- シューズ・ザット・フィット
  シューズ・ザット・フィットは、経済的に困窮している家庭の子どもたちに新しい靴や衣類、その他の必需品を提供し、彼らの自尊心の確立を促しており、MFUSはその活動を支援しています。
- プロジェクト・アクセス
  MFUSは、高齢者支援や支援を必要としている家庭のための放課後の個別指導／宿題支援、コンピューターとインターネットの指導と実際の利用、教育ゲーム、読書会ならびに生産的な情操教育などの活動を行っているプロジェクト・アクセスを支援しています。

j 「スタッフ・ア・ソン」ボランティアイベント

k MSBの支援

l セカンド・ハーベスト・フードバンクでのボランティア

※1 2014年10月～2015年9月。
※2 マイ・スタッフ・バッグ財団は、虐待やネグレクトされ、難局に陥り、里親に出された子どもたちへマイ・スタッフバッグを通して、安心と希望のメッセージを届けるユニークなプログラムです。財団の使命は、全米の各地にいる虐待や放棄、ネグレクトされた子どもたちのために力強い支持を行うことです。
※3 物資をバックに詰め込んでいくことで募金を集める活動。
※4 オレンジ郡のセカンド・ハーベスト・フード・バンクは、オレンジ郡最大の飢えに対する救援物資をもたらす非営利組織で、社会の飢えを終わらせるための闘いにおいて主導的役割を担っています。セカンド・ハーベストは寄付や、購入、準備された食べ物を、国内440カ所にある320の提携機関のネットワークを通して分配しています。
※5 オレンジ郡の非営利団体であるOneOCが財務的に支援しているプロジェクト「サイエンス@OC」は、オレンジ郡の教育者たちと連携し、科学に秀でた才能があり、STEMキャリアに進みたいと考えている中学生に刺激を与えるプログラム。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

カナダ

マツダカナダ(MCI)は、地域社会のニーズに応じた活動を行い、さまざまな社会貢献に取り組んでいます。募金活動のほか、MCIならではの強みを生かした取り組みを行っています。

さまざまな慈善活動への支援 環境 人材 地域

目的：慈善団体を支援する。
取り組み：MCIは社会福祉に関連した慈善活動を支援しています。 m
2015年度実績

- MCI従業員とマネジメントは12月の休暇前に行われるギビングツリーやくじ・オークションなどさまざまなイベントによる資金を集め、年間を通じて360°kids※1の募金活動を支援しました。 n
- MCI従業員は、バーチャルアニマルアダプション※2、ガレージセールやパンケーキ・ブレックファストなどさまざまなイベントにより資金を集め、年間を通じてトロント・ワイルド・センター※3を支援しました。
- 5月、MCI従業員20名とその家族や友人20名が4年連続で、がんなどと闘う子どもたちのための大会「スポーティング・ライフ・10キロ・トロント」に参加しました。さまざまな募金活動を通じて、小児がんと闘う子ども2名が「キャンプ・ウーチギアス」に参加できるよう支援しました。このキャンプは、小児がんなどに侵された子どもたちに、チャレンジングで楽しく、実りの多い魅力的な体験を通じて成長する機会を提供しています。
- 6月、MCIは企業スポンサーとして、160キロリレー競技に参加しました。また、16名の従業員がほかの優秀な競技者たちと共にカヌー、マウンテンバイクおよびランニングやハイキングによりオンタリオ州のオークリッジ・トレイルを進み、その特有の環境についての知識を深め、環境保護と維持の大切さを学ぶことに協力しました。スポンサー参加費は、このイベントを主催するボランティア団体であるオークリッジ・トレイル協会(ORTA)※4の支援に活用されます。
- 1月、MCI従業員チームは冬季屋内「シックキッズ・バレーボール大会」に参加し、「シックキッズ・ホスピタル」のための資金集めを支援しました。

カナダナショナル・カヌー／カヤックチームの支援 地域

目的：世界レベルの選手やコーチの育成を支援する。
取り組み：MCIは、選手育成活動の一環として、カナダナショナル・カヌー／カヤックチームの企業スポンサーを1995年から務めています。これは、カナダにおけるスポーツの企業スポンサーとしては最長期間であり、21年目を迎えました。
2015年度実績
MCIは、ナショナルチームへの財政的支援の提供に加え、選手育成活動に使用するためのマツダ車を貸与しました。

カナダナショナル・スノーボードチームの支援 地域

目的：世界レベルの選手やコーチの育成を支援する。
取り組み：MCIは、選手育成活動の一環として、カナダナショナル・スノーボードチームの企業スポンサーを2012年から務めています。
2015年度実績
MCIは、ナショナルチームへの財政的支援の提供に加え、選手育成活動に使用するためのマツダ車を貸与しました。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

MCIの社会貢献活動推進者

人事部 スペシャリスト
イングリッド・ヴィラトーロ

m 慈善活動の支援

n 360°kidsプログラムの支援

※1 360°kidsは、毎年世界中の1,300名以上の家族と2,800名以上の若者を救っています。彼らの使命は、コミュニティにいる孤立した弱い子どもや若者、家族が逆境や難局を克服し、安全性、信頼性、健康を確保できる段階へいけるよう援助することです。
※2 保護団体のシェルターにいる捨て猫や捨て犬の仮の里親として登録し、貰い手が現れるまでのかかる費用を負担するプログラム。
※3 トロント・ワイルド・ライフ・センターは、野生動物の状態についての教育や専門家の意見を提供し、健康になった動物を野生に戻すことを最終目標として掲げ、病気、けがをしている親を失った野生動物の治療を行うことで、人と野生動物の平和的共存を促進しています。
※4 ORTAはオンタリオ州で最も人口が多い地域に広がるオークリッジ・モレーン(氷堆積)特有の環境の保護・維持、および教育を目的として活動しています。

メキシコ

マツダデメヒコビークルオペレーション(MMVO)は、地元政府と連携し、地域社会と共に成長し、成功する良き企業市民としての活動に積極的に取り組んでいます。

渡り鳥の生息環境保護を推進 環境 地域

目的：渡り鳥が生息できる自然環境および景観を提供する。
取り組み：メキシコでは近年の工業化に伴い、水辺や森林、畑といった動物の生息環境が徐々に減ってきていることから、MMVOでは、渡り鳥の生息環境を提供するため、工場内に調整池を設けるなど、自然環境保護に積極的に参加し、渡り鳥が飛来、生育できる環境の保護を支援しています。
2015年度実績
環境に配慮した水辺を維持するため、工場内にある、調整池を改良しました。例として、工場内最大の貯水池に噴水をつくり、よりきれいで安全な水を渡り鳥に提供することに役立っています。

敷地周辺の環境保護を推進 環境 地域

目的：地元政府・環境保護局と連携し企業市民として敷地周辺の環境保全に寄与する。
取り組み：MMVOが利用する河川は地域住民と共有されていることから、排水路を良好な状態に保つため、工場敷地周辺の排水路の維持管理活動に積極的に参画し、地域社会へ貢献しています。また、希少木メスキーテの積極的保護にも取り組んでいます。敷地周辺の環境保護のみならず良き企業市民としての社会的責任を果たし地域との良好な関係構築につなげています。
2015年度実績
年間を通じて、敷地周辺の排水路清掃活動を実施し、維持・管理を行いました。排水路周辺の草刈りに加え、排水路底部の泥の除去も実施しています。従来は河川管理組合が3年に1回の清掃を行っていましたが、清掃頻度を年1回にしてMMVOが清掃活動に参加し周辺地域の治水環境維持に貢献しています。

サラマンカの子どもたちへおもちゃを寄付 地域

目的：経済的に恵まれない子どもたちがホリデーシーズンを笑顔と喜びの中で過ごすことができるよう、経済面・精神面で支援する。
取り組み：MMVOは、従業員たちの間でおもちゃを集め、恵まれない子どもたちへ寄付をするキャンペーンを実施しています。特に近隣のコミュニティの子どもたちとホリデーシーズンの、東方三賢者の日（1月6日）に、地域社会と交流しています。
2015年度実績
1月、MMVOはサラマンカ市と協力し、「心を幸せにする」というイベントのプログラムを通して、小学生に2,700個のおもちゃを届けました。MMVOのマネジメントおよび従業員がイベントに参加し、子どもたちへ直接おもちゃを手渡しました。イベントはメディアでも紹介され、従業員たちの自信にもつながりました。 o p

サラマンカ・スプリング・フェスティバルへの参加 地域

目的：地域イベントへ積極的に参加することで地域の再生へ貢献する。
取り組み：MMVOはサラマンカ・スプリング・フェスティバルに参加し、ブースにてクルマの生産工程とメキシコ工場で生産しているマツダ車の紹介をしました。
2015年度実績
3月から4月のフェスティバル期間中、1,100名の来場者を迎えました。MMVOのマネジメントメンバーも開会式に参加し、来場した方々にマツダグッズを提供しました。 q

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

MMVOの社会貢献活動推進者

広報部 アシスタントマネージャー
ダビ・エルナンデス・ルメス

o おもちゃの寄付

p 東方三賢者の日のイベント

q サラマンカ・スプリング・フェスティバル

欧州

マツダの幅広いネットワークを生かし、マツダモーターヨーロッパGmbH(MME)と欧州各国の販売統括会社は、“ONE MAZDA”の精神に基づき広範囲で、かつ地域に根ざした活動を行っています。モビリティの向上を含め、子どもたちの幸せづくりのための支援に注力しています。

SOSチルドレンズ・ヴィレッジと協働(欧州全体) 人材 地域

目的：欧州各国で家族と生活できない子どもを保護する活動を支援する。

取り組み：MMEと多くの欧州販売統括会社は、それぞれの国のSOSチルドレンズ・ヴィレッジ(SCV)と協働で支援活動を展開しています。SCVは、親や養育者と共に生活できない子どもを支援している国際的な団体です。各販売統括会社では、従業員から募った1名の「大使」(プロジェクト担当者)が中心となって活動を推進しています。マツダならではのユニークな活動として、MMEと各販売統括会社は共同で移動用のクルマ提供や従業員によるボランティア活動を行っています。

2015年度実績

ドイツ マツダモータース(ドイツランド)GmbH(MMD)

- デュッセルドルフのSOSチルドレン・アンド・ユース施設の難民の子どもたちやその指導者の移動のために、マツダ車1台を1年間無償で提供しました。2015年、ドイツでの予期せぬ欧州難民問題により、SCVは保護者のいない非常に多くの未成年の保護が必要となり、マツダ車提供はその課題解決に貢献しました。 a
- MMEメンバーに加えMMD従業員・マネジメント25名はデュッセルドルフ・ガラートの新しいSCV、デイケア・センターの支援を実施しました。12月には、子どもたちにプレゼントを贈り、歌、料理、手芸など多くのクリスマスイベントを行いました。レバークーゼンにあるMMD本社のクリスマスツリーに飾られた74名の子どもたちが書いた願い事リストを受け取ったMMD従業員が、一人ひとりにプレゼントを準備しました。 b
- ドイツ全土で開催される「ガールズデー」を支援し、自動車業界に興味のある12名にキャリア・オリエンテーションを実施しました。4月、MMDマネジメントと経験豊富な従業員が、自動車業界の技術分野で実現可能なキャリアの概要について説明し、MMD本社内のトレーニングセンターにてマツダ独自の技術を含めた技術説明会を行いました。

オーストリア マツダオーストリアGmbH(MAG)

- モースブルクのSOSチルドレンズ・ヴィレッジにある、不安定な家庭環境に置かれている子どもたちの支援施設、「バーバクス・ハウス」に対して8年間にわたり以下の支援を行っています。
  - ・定期的な寄付
  - ・「MoFA(移動家族支援プログラム)」のためにマツダ車を1台提供・4台貸与することで、約120家族の日常生活を支援しました。 c
  - ・MAG従業員は、毎年恒例の交流日、SCVサマーフェスティバルで「カー・デザイン・ペインティング・ワークショップ」を開催しました。
  - ・MAG従業員によるレシピが掲載されている料理本を出版し、その収益を教科書の購入費として寄付しました。
  - ・MAG従業員の代表メンバーは、SCVのクリスマスパーティで「バーバクス・ハウス」の子どもたちにお手玉をプレゼントしました。また、MAG恒例のクリスマスくじの収益を寄付しました。

スペイン マツダオートモービルズエスパーニャ,S.A.(MAE)

- スペインでマツダ車販売台数に応じた寄付を続け、2万名の子どもたちの援助を目的としたSOSチルドレンズ・ヴィレッジのプロジェクトであるBSOSキャンペーン※1を支援しました。
- 子どもたちの学校送迎のため、マツダ車を2台貸与しました。

ハンガリー　マツダモーターハンガリー(MMH)

- SCVやMMHが準備したリサイクルプラスチック製の広告用材料などを使って子どもたちが自分のバッグを作るというイベントを開催しました。 d

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

MMEの社会貢献活動推進者

PRコーポレートコミュニケーション部門
コーディネーター
ナディン・フェーリング

SOS CHILDREN'S VILLAGES

a ドイツ：無償でマツダ車を貸与

b ドイツ：クリスマスイベント

c オーストリア：移動家族支援プログラム

d ハンガリー：オリジナルバッグ制作体験

※1 このキャンペーンでは、100万件の寄付を行うことを目指しています。マツダの車が1台売れるたびに、マツダが1件の寄付(1回のキス)を行うもの。このキャンペーン名は、「besos(スペイン語で“キス”)」とSOSをかけたもの。

■ 地元SCVの子どもたちが本当の両親に会いに行くための交通費を寄付しました。

クロアチアおよびセルビア　マツダモータークロアチア（MMC）

■ クロアチア：マツダ車をSCVモバイル・チームへの1年間の貸与やメンテナンス費用（水、ガス、電気など）の金銭的支援を行いました [e]

■ セルビア：クラリェボのSCVに対してメンテナンス費用を支援しました。 [f]

清掃ボランティア活動（欧州全体） 環境 地域

目的：清掃ボランティア活動により地域へ貢献する。

取り組み：MMEとMMDの従業員の本社周辺清掃活動によりレバークーゼン市を支援する。

2015年度実績

3月、MMEとMMDの従業員30名はレバークーゼン市の春の清掃活動に協力し、1時間の清掃ボランティア活動を行いました。 [g]

ノーベル平和賞受賞者世界サミットの支援（欧州全体） 人材 地域

目的：より良い世界へするための活動を支援しました。

取り組み：2013年以来、マツダは主要パートナーとして、サミットの実施および「Mazda Makes Thing Better Award」ワークショップを例年開催しています※1。

2015年度実績

4月、MMEは2014年12月に開催した「第2回 Mazda Make Things Better Award」の受賞者を発表しました。日本の学生による「世界の若者による若者のためのオンライン・チューター制度」という革新的な若者向け教育プロジェクトが受賞し、現在、パイロットプロジェクトを実行中です。

11月、MMEはリーディングパートナーとして、第15回ノーベル平和賞受賞者世界サミット年次大会への金銭的支援とオフィシャルカー用マツダ車の提供を行いました（スペイン開催）。また、若者向けワークショップを主催し、世界各国の150名の生徒が参加しました。内50名は「第3回Mazda Make Things Better Award」に参加しました。 [h]

ロシア

マツダモーターロシア（MMR）は、従業員、およびマツダファンクラブ会員の自由参加による慈善活動プロジェクト、「EN（縁・人と人との深いつながり）」を通じ、地域社会のニーズに応じたさまざまな社会貢献活動を行っています。 [i]

[e] クロアチア：移動家族支援プログラム

[f] セルビア：クラリェボのSCV支援

[g] 春の清掃活動

[h] 第2回Mazda Make Things Better Award

MMRの社会貢献活動推進者

代表取締役社長
ヨルグ・シュライバー

[i] 「EN」のロゴマーク

Mazda EN ГЛУБОКАЯ СВЯЗЬ МЕЖДУ ЛЮДЬМИ 縁

※1 マツダがユース・サミットのプログラムの一環としてワークショップの際にスタートさせたもので、若いながらも影響力を持つ人々に、政策立案者に対しその考えを表明する機会を与えることを目的としています。また、日常の生活をより快適で豊かなものにする近代的な政策支援のためのツールの活用を支援するもので、マツダの改善／改革へのチャレンジ精神を反映しています。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

中国

マツダ(中国)企業管理有限公司(MCO)※1、長安マツダ汽車(南京)(CMA)※2、長安フォードマツダエンジン(CFME)※3、一汽マツダ汽車販売(FMSC)※4は、中国でさまざまな社会貢献活動を行っています。
各社の重点取り組みは以下の通りです。
MCO　次世代人材の育成
CMA　地球環境保護・豊かな社会づくりへの貢献
CFME　地球環境保護・豊かな社会づくりへの貢献
FMSC　豊かな社会づくりへの貢献

マツダ麦苗クラスの設立 人材 地域

目的：経済的に恵まれない子どもたちを経済面・精神面で支援する。
取り組み：MCOは2005年に中国で初めて設立された民間公益助学団体「麦田プロジェクト教育基金会」※5を通じて、教科書以外の本を読む機会に恵まれない学校に対して、2012年に「マツダ麦苗クラス(以下、麦苗クラス)」を設立。経済面・精神面でのサポートを行ってきました。
2015年度実績※6
9月、涼山州の中学校で麦苗クラス開設式が行われ、2期目となる3年間の活動を開始(2015年9月～2018年7月)。 a
11月、新たな取り組みとして、教師の交流や研修の支援を開始。麦苗クラスの中学校教師5名が、北京市の優良中学校を訪問し、教育方針などについて研修・意見交換を実施。 b
12月、「暖かい冬活動」と題して、マツダ麦苗クラス生徒に制服、靴など生活用品を贈呈。

地域の森林保全活動に協力 環境 地域

目的：森林保全活動に貢献し地域と交流する。
取り組み：CMA従業員はお客さまと共に、環境改善・次世代の人々のより良い人生の実現を目指し、プロジェクトに貢献しています。
2015年度実績※6
10月、CMA従業員12名とお客さま40名は、内モンゴル自治区パオトウ市の観光事業省と協力し、パトソウ市のボランティア活動に参加し25本の植林を行いました。 c

地域学校の支援 人材 地域

目的：助けが必要な子どもたちのために、よりよい学習環境を提供する。
取り組み：CMAは地震があった雲南省にて「長安マツダ児童保護」を発足しました。CMAの従業員はプロジェクトに参加し、助けを必要としている人々に生活用品を寄付しました。
2015年度実績※6
11月、西部地区のCMAディーラー40店舗とその従業員120名、政府および雲南省雲県の教育省と協力して行われたプロジェクトにボランティアとして参加し、文房具や冬服といった数多くの品を雲南省の先生や生徒たち約100名に贈りました。 d

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

MCOの社会貢献活動推進者

涉外法務部 Sr.スペシャリスト
鄧 雲(トウ ウン)

CMAの社会貢献活動推進者

PRマネージャー
許 涛(シー タオウ)

CFMEの社会貢献活動推進者

副社長
賈 振川(ジャー ゼン チュアン)

FMSCの社会貢献活動推進者

総経理
高橋 良二

a 麦田プロジェクト マツダ麦苗クラス開設式

b 教師研修

c 森林保全活動

d 「長安マツダ児童保護」プロジェクト

※1 上海市に拠点を置く中国市場の事業統括会社。
※2 南京市に拠点を置く生産拠点。
2015年夏中国自動車業界社会的責任サミットにて「社会貢献活動を改革し社会的責任取り組みを進める企業「Be revolutionize the practice in public contributions, and undertake the social responsibilities」として表彰されました。
※3 南京市に拠点を置く生産拠点。
※4 長春市に拠点を置く販売拠点。
※5 麦田とは、「一面に揺らぐ金色の麦畑(中国語は麦田)」の収穫の喜びに憧れを抱いて基金創設者が付けた名前。マツダはこれを支援して現地の学校と提携、「小さな苗が健やかに育ち金色の麦の"田んぼ"に成長できる」ことを願い、「マツダ麦苗クラス」と名付けたクラスをスタートさせた。2012年9月からの第1期の活動では図書館設立資金および図書の贈呈や、従業員によるその学校の子どもたちとの文通等を実施。
※6 2015年1月～2015年12月。

障がいのある子どもたちの支援 地域

目的：次世代を担う子どもたち、特に障がいのある子どもたちの支援。
取り組み：CMAは、地方自治体と多くの参加者の支援を得て、中国全土の次世代の人々のために、地域の養護施設との協力のもとに介護プロジェクトを促進しています。
2015年度実績※1
7月、CMA従業員とその家族、お客さま(主に地域のCMAオートクラブのメンバー)は介護プロジェクトに参加し、成都市の自閉症の子どもたち20名と一緒に遠足に出かけ、美しい世界を楽しんでもらえるよういくつもの活動を実施しました。合計40名がプログラムに参加しました。
特定の地域では、CMAのディーラーとお客さまは継続的に地域の児童養護施設を訪問し、子どもたちにとって必要な文房具や運動器具を寄付しています。 e

e CMA 介護プロジェクト

グリーンライフスタイルの推進 環境 地域

目的：環境保護を支援する。
取り組み：CFMEは、南京江寧経済技術開発区党工委や環境局と連携し、環境保護を目的とした活動を実施しています。
2015年度実績※1
6月、CFMEは江寧開発区党工委に環境保護の取り組みを宣言し、社員代表に環境保護の書類を配布するなど活動推進のイベントを実施。江寧開発区から“江寧経済開発区環境管理先進企業”として受賞。 f
CFMEの10名のボランティアが江寧清水でエコバッグ・パンフレットを配布、住民にエコ知識を紹介し、自発的に環境保護活動に取り組んでもらうようアピール。

f Fulfill Green Life Style-CFME is on the Wayイベント

高齢者福祉施設の支援 地域

目的：福祉施設の入居者を支援する。
取り組み：CFMEのボランティアは施設訪問や食品・生活用品の贈呈などの支援を行っています。
2015年度実績※1
5月、11名のボランティアが江蘇省の福祉施設を訪問、食品や生活用品の贈呈、交流会開催、散髪、髭剃り、洗濯などに協力。 g

g 高齢者福祉施設でのボランティア

高齢者福祉施設の支援 地域

目的：福祉施設の入居者を支援する。
取り組み：FMSCは労使共同で結成した一汽マツダ青年ボランティア会による施設訪問活動などを実施、地域との強い絆、支え合う地域社会の構築を目指しています。
2015年度実績※1
11月、一汽マツダ青年ボランティア会のメンバー約30名が、長春市社会福祉院を訪問。施設の約100名の高齢者が元気に過ごせるよう卓球台を3台を寄付し健康推進を支援。 h

h 福祉施設による感謝の訪問

子どもたちの支援 地域

目的：経済的に恵まれない子どもたちを支援する。
取り組み： 一汽マツダ青年ボランティア会が中心となり、経済的に恵まれない子どもたちを継続支援しています。
2015年度実績※1
11月、暖かく冬を過ごせるよう、青海省の子どもたち約100名に防寒服、布団など18箱を寄付。

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 2015年1月～2015年12月。

台湾

マツダ台湾（MMT）とその従業員は、より明るい未来を目指して、近隣の人々や社会の支援に積極的に取り組んでいます。MMTは若者の教育と真に助けを必要としている人々を支援することで、社会に貢献していきます。

日本と台湾の高校野球交流プロジェクト 人材

目的： 台湾の高校野球チーム発展の支援および日本と台湾で一番人気のスポーツを通しての両国間の交流を深める。

取り組み： 台湾の人々のチャレンジ精神を高めるために、MMTは、王貞治氏※1および台湾野球連盟と協力し、日本と台湾の高校野球交流試合を主催しました。

2015年度実績

MMTは9つの交流試合を主催し、約12,000枚の招待券をMMT従業員、高校生および野球ファンに配布しました。また王貞治氏とマツダのチャレンジ精神に関する2本の映像を制作しました。

加えて、地元の高校野球選手に対して以下の貢献を行いました。 a

- 台湾プロ野球選手による講演
- 日本の高校と台湾の全国高校野球大会優勝校の合同プロ交流試合
- 日本人プロコーチによる指導合宿
- 日本の大学で野球を学ぶ機会の提供

災害復旧を支援 地域

目的：自然災害の被災者のための救援活動および復旧活動を支援する。

取り組み：台湾南部地震で影響を受けた地域のニーズに応える。

2015年度実績

MMTは、2月に起きた台湾南部地震の被災者のための救援活動および復旧活動支援のため、地元台南市政府へ寄付を行いました。

MMTの社会貢献活動推進者

マーケティング本部
本部長
賴（ライ） 信宏（シンホン）

a 高校野球交流試合

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 王貞治氏は、日本のセントラル・リーグ加盟球団の読売ジャイアンツで1959年から1980年の22シーズン活躍していたプロ野球選手で、ホームランの世界記録を持っています。

タイ

オートアライアンス(タイランド)(AAT)とマツダセールス(タイランド)(MST)は、タイでさまざまな社会貢献活動を行っています。
AATは、従業員の安全と健康に対する意識を高め、AATの考え方を地域に伝えるために、人材育成およびAATの安全・健康方針に基づく活動を支援しています。また、MSTは、良き企業市民として社会貢献活動に取り組んでいます。

清掃活動 環境 地域

目的：清掃活動を通じて社会貢献を行う。
取り組み：AATは、子どもたちをはじめとする地域の人々や観光客の環境を保護するために、チョンブリー県のビーチや公園を清掃しています。
2015年度実績※1
6月、AATの従業員およびマネジメントチーム約60名はウォンナパビーチ、バンセンビーチ、および市民公園周辺の清掃ボランティア活動に参加しました。さらに次世代を担う子どもたちが安全かつ楽しく遊ぶことができるよう、公園の囲いやベンチを修理し、ペンキの塗り替えを行いました。 a

学校での安全プロジェクトおよびHIV／AIDSケア施設の支援 人材 地域

目的：安全と健康に対する意識を高め、AATの方針を地域コミュニティに伝える。
取り組み：AATの職業安全健康委員会は、ボランティア活動を行うAATの「ホープクラブ」と協力して、「学校での安全プロジェクト」を推進しています。さらにHIV／AIDSに感染した子どもたちをケアするための施設「ハウス・オブ・グレイス・チャイルド財団(思いやりの館子ども財団)」を拠点とするHIV／AIDS患者支援コミュニティを支援しました。
2015年度実績※1
学校での安全プロジェクト
- 健康な生活を維持するための昼食プログラムを提供しました。
- 資金、文房具、運動器具を寄付しました。
- AATの保守チームによる電気設備の予防保全を行いました。
- 安全、健康、環境およびチーム形成の学習を目的とした安全ミニ・ウォーク・ラリーを学校教育プログラムとして提供しました。 b

HIV／AIDS ケア施設の支援
- 新年会を支援し、HIV／AIDS 子どもたちにプレゼントを贈りました。

インターンシップ・プログラムの支援 人材 地域

目的：働く機会を通して、学生たちの役に立つ知識を提供する。
取り組み：1998年以来、AATは各大学から募集した学生を対象とした「インターンシップ・プログラム」を継続的に実施しています。AATは、多くの大学と連携し、教育省が規定する学業プログラムに則した職業訓練を提供しており、タイ国内の発展に寄与できる有能な卒業生の輩出に貢献していることが評価されています。
2015年度実績※1
6月から7月の間、30名の大学生がインターンシップを通して実務を体験する機会を提供しました。 c

AATの社会貢献活動推進者

人事部 アナリスト
スカーニャ・ホォングヘン

MSTの社会貢献活動推進者

社長(当時)
武居 秀介

a ビーチの清掃

b 学校での安全プロジェクト

c インターンシップ・プログラム

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 2015年1月～2015年12月。

小学生の支援 人材 地域

目的：タイ北部の山岳民族の小学生を支援する。
取り組み：MSTは、都会から離れた地域に住んでいる子どもたちの生活および教育環境の改善を支援しています。
2015年度実績
3月、MSTは、ナーン県で行われたCX-5のメディア向けオフロード試乗会の機会を利用し、北部の山岳民族の子どもたちと交流するイベントを開催しました。子どもたちの福祉向上のため、資金提供に加え、文房具、運動器具を学校へ寄付しました。 d

d 小学生の支援

トンチャイ・ジャイディー財団への支援 地域

目的：スポーツを振興する。
取り組み：MSTはゴルフを支援しました。
2015年度実績
9月、MSTはホアヒンのブラックマウンテンで行われたゴルフのアジアンデベロップメントツアー(ADT)※1のためトンチャイ・ジャイディー財団の支援を行いました。 e

e ADTスポンサー

スポーツの振興支援 地域

目的：スポーツを振興する。
取り組み：MSTはサッカーを支援しました。
2015年度実績
2月、MSTは、タイにおけるサッカーの人気の促進、国際レベルへの発展およびナコーンラーチャシーマーの経済発展に協力するため、連続4年目のナコーンラーチャシーマー・マツダFCのスポンサーとなりました。 f

f スポーツの振興支援

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 アジアンデベロップメントツアーは、アジアでプロゴルファーを育成する目的で、2010年に設立されました。

マレーシア

マツダは、2012年にベルマツモーター※1(ベルマツ)と合弁会社マツダ・マレーシアSdn. Bhd.(マツダ・マレーシア)を設立しました。ベルマツは、良き企業市民としてリーダーシップを取りながら、社会貢献活動に積極的に取り組んでおり、マツダ・マレーシアはその活動に参加しています。

マツダCSRチャリティドライブ 地域

目的：児童養護施設および老人ホームを支援する。
取り組み／2015年度実績
8月、ベルマツは10台のMX-5でクアラルンプール、マラッカ、バトゥパハ、ジョホールバル間のチャリティドライブを行い、1か所の児童養護施設および2か所の老人ホームへ寄付をしました。さらに、ベルマツの支援により子どもたちへはお菓子やおもちゃの詰め合わせ、昼食、バースデーケーキが提供されました。ベルマツから従業員5名、マツダMX-5・クラブ・マレーシアからオーナー10名がチャリティに参加しました。

第3回マツダチャリティゴルフトーナメント2015 地域

目的：児童養護施設、老人ホーム、およびがん患者を支援する。
取り組み／2015年度実績
12月、ベルマツとプリマ・メルドゥSdn.Bhd.※2は共同チャリティトーナメントを開催し、ベルマツのトップ・マネジメント含む128名が参加しました。ベルマツは、このイベントの全収益を児童養護施設、老人ホームやがん病院など、地域の慈善団体および非営利団体へ寄付しました。

ブキット・キアラ・ウェンズデー・グレーディドトリオボウリング・リーグ2015の支援 地域

目的：健康的なライフスタイルを推進する。
取り組み／2015年度実績
ベルマツは、バランス力と筋力を必要とする娯楽であり生涯スポーツでもあるボウリングに対する市民の認識を高める目的でリーグを支援し、賞品としてマツダグッズを提供しました。ボウリングは多民族社会であるマレーシアのどの年齢層でも楽しむことができるスポーツです。4月、ベルマツ従業員12名とマツダ・マレーシアのマネジメントチームがゲームに参加しました。

オラン・アスリの子どもたちの支援 地域

目的：キャメロン・ハイランドに住むオラン・アスリ※3の子どもたちを支援する。
取り組み／2015年度実績
12月、ベルマツはオラン・アスリの子どもたちのための支援プログラムを実施しました。プログラムでは、幸福で楽しい経験をしてもらうために、資金の提供とともに、約200名の子どもたちに昼食およびマツダグッズの詰め合わせを提供しました。

マレーシアの社会貢献活動推進者

ベルマツモータートレーディング
マーケティング本部長
リー・アイ・フン

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 ベルジャヤ・オートを主要株主とした、現地資本100%のマレーシアにおけるマツダ車の販売統括会社。
※2 ベルマツとプリマ・メルドゥSdn.Bhd.は、マツダ・メディケア・ファンドMMF経由で資金を提供し、腎臓病患者を支援しました。
※3 オラン・アスリはマレー半島の先住民。

オーストラリア

マツダオーストラリア(MA)は、企業協賛プログラムを通じて、誠実で信頼される地域貢献活動を行うことを目標としています。さらに、地域に根付いたプログラムや団体に対して、マツダ財団オーストラリア(MFA)を通じて支援を行っています。
MA従業員は、これらプログラムへの参加や、社会貢献活動の支援を奨励されており、地域に貢献できる機会が与えられています。

王立小児病院の支援 地域

目的：地域医療への貢献と従業員の地域ボランティア参加を促進する。
取り組み：MAは毎年3～4月に開催される王立小児病院※1のランニングイベント「ラン・フォー・ザ・キッズ」を支援しています。イベントを通じて集められた募金は、王立小児病院の重要な研究、施設、機器のために活用されます。
2015年度実績

- MAとサプライヤーから、約50名の参加者が集まってチームをつくり、イベントに参加しました。
- 企業スポンサーとして11回目の支援を行い、マツダ車1台を贈呈しました。

スポーツの振興支援 地域

目的：スポーツを振興する。
取り組み：MAは、オーストラリア・フットボールリーグ(AFL)の名門クラブ、「ノース・メルボルン・フットボール・クラブ」の主要スポンサーとして協賛しています。
2015年度実績
MAは、21年間となる2019年シーズンの終了まで同クラブとのパートナーシップを延長しました。今年度は、寄付およびマツダ車16台を貸与しました。 a

文化・芸術の支援 地域

目的：芸術支援を行い、オーストラリアの文化的環境と地域住民の生活を豊かにする。
取り組み：MAは「オーストラリア美術展(AEA)」のプレミアムスポンサーとして14年にわたる支援を行っています。世界で最も人気がある芸術作品をオーストラリアで展示し、400万名の人々にそれらの作品を鑑賞する機会を提供しました。また、13年におよぶMAと「オペラ・オーストラリア」とのパートナーシップはさらに深まり、最近の5年間はプリンシパル・パートナーとして協賛しています。
2015年度実績

- メルボルン・ウィンター・マスターピースの展覧会を支援。 b
- 「オペラ・オーストラリア」のプリンシパル・パートナーとして、MAはシドニーとメルボルンにて、マツダ・オペラ・イン・ボウル、シドニー・マイヤー・ミュージック・ボウルおよびマツダ・オペラ・イン・ドメインを支援。MAは、より多くの人々にオペラを紹介する取り組みを進めており、この無料コンサートは、オペラの魅力と思い出に残る時を祝福しています。 c

カジュアル・ドレス・デーの実施 地域

目的：地域貢献、従業員のボランティア参加を促進する。
取り組み／2015年度実績
約250名の従業員が「カジュアル・ドレス・デー※2」に参加。集められた募金は、王立小児病院※1に贈られました。

MAの社会貢献活動推進者

社長
マーティン・ベンダース

a ノース・メルボルン・フットボール・クラブのスポンサー

b メルボルン・ウィンター・マスターピース

c オペラ・イン・ザ・ドメイン

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 王立小児病院は、健康、研究、教育の分野をリードし、子どもや青年の健康と福祉を向上させていきます。
※2 カジュアルな服装で出勤した従業員が募金活動に参加する。MAが毎週金曜日に設けているイベント。

マツダ財団オーストラリア

マツダ財団オーストラリア(MFA)は、1990年8月に設立され、教育、環境保護、科学技術振興への助成および社会福祉関連取り組みへの貢献を行っています。設立以来、980万豪ドルを超える支援を行っています。特別な募金活動以外にも、MFAの活動はMAやマツダディーラー、また一般からの多額の寄付によって支えられています(2015年度実績:120万豪ドルを超える寄付金を提供)。

さまざまな慈善活動への支援 人材 地域 財団

目的:心身に障がいを持つ子どもや高齢者および彼らの介護者の支援を行っている地域に根差した団体、特に障がい者の孤立問題に取り組んでいるプロジェクトを支援する。

取り組み/2015年度実績

MFAは、子どもや高齢者を対象としたさまざまなプログラムを実施しており、以下のような多数のプロジェクトを支援しました。

- アングリケア・ビクトリア(子どもと家族の支援を提供)。
- オーティズム・アウェアネス(保護者や専門家などに的を絞った啓発プログラムを提供し、地域社会の自閉症に対する意識向上に取り組む)。
- オーストラリア補助犬団体(身体に障がいがある人がさらに自立できるよう、適切に補助できる犬のトレーニングと提供)。
- ビッグブラザー・ビッグシスター・オーストラリア(オーストラリア全土の何千人もの恵まれない若者たちの人生を変えるための支援)。
- 自閉症キャンプWA(自閉症スペクトラムの子を持つ家族が、子どもと一緒に中立的な環境の中、週末のキャンプや1日イベントへ楽しく参加できる機会を提供)。
- キャンプ・クオリティー(オーストラリアでがんを患っている子どもたちがより良い人生を送れるよう支援)。
- エチューカ・特技学校(知力とそれに関連した身体的障がいをもつ5-18歳の子どもたちへ教育を提供)。
- エモーション21(ダウン症の子どもや若者のために、オーストラリアで初めて根拠に基づいた革新的なダンスとフィットネスプログラムを提供)。
- フェア・シェア(期限切れ間近の材料を集めて調理し、惣菜にして援助が必要な人々へ提供)。 d
- フィッテッド・フォー・ワーク(就職・雇用継続に関して恵まれない状況にある女性に対する支援)。
- 障がい者自立(支援)サービス(障がいがある人々が自身の望む人生を送れるよう支援)。
- キッズ・エクスプレス(子どもたちとその家族、地域が幸福を向上するために心的外傷が与える影響を管理し最小化するよう支援)。
- キラーニー記念老人介護(病気、不適正、孤立、不安、孤独など老年になって生じる要求の緩和)。
- モントローズ・アクセス(身体に障がいのある患者とその家族に対し、各人の可能性を最大限に発揮して地域社会に参加するための支援サービスを提供)。
- 南オーストラリア王立盲目協会(視力に厳しい障がいがある南オーストラリアの人々にサービスを提供)。
- スペシャルオリンピックス(知的障がいのある子どもや成人を対象に、年間を通して、オリンピック競技種目に準じたさまざまなスポーツトレーニングと競技の場を提供)。

d フェア・シェアの支援

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

ニュージーランド

マツダモータースオブニュージーランド(MMNZ)は、常に社会ニーズを踏まえながらさまざまな社会貢献活動を行っています。活動は主にマツダ財団ニュージーランド(MFNZ)を通して行われています。

オークランド動物園の支援 環境 地域

目的：動物とその保護活動に従事する人々に対し、安全な環境を提供する。

取り組み／2015年度実績

MMNZは、オークランド動物園※1とのパートナー契約に基づき、2012年よりマツダ車3台を提供しています。12月、1台を新車のBT-50に更新しました。 a

前立腺がん財団の支援 地域

目的：命に関わるこの病気に関する男性の意識啓発を支援。

取り組み／2015年度実績

MMNZは、前立腺がん財団(PCF)※2のスポンサーとしてマツダ車を提供しています。象徴的なブルーリボンとロゴ入りのマツダ車は意識啓発に貢献しています。 b

マツダ財団ニュージーランド

マツダ財団ニュージーランド(MFNZ)は2005年11月に設立され、教育、環境保全、文化活動など多様な取り組みに資金を提供しています。設立以来、592の個人・団体に約200万NZドルの支援を行っています。毎年、年3回の頻度でニュージーランドにおいて支援を必要としている個人、地域団体、慈善団体を選び支援しています(2015年度実績：76の個人・団体に対し、約23万NZドルの資金を提供)。

地域の自生樹木による庭園づくり、「ツリーメンダス・スクール・メイクオーバー」プロジェクトの支援 環境 人材 地域 財団

目的：毎年、ニュージーランドの学校を4校選び、プロジェクトを通して校庭の整備やさまざまな地域自生の植物の栽培を行うことで、野外・環境教育の提供を支援する。

取り組み／2015年度実績

MFNZは、2008年からニュージーランドの代表的な保護団体、プロジェクト・クリムゾン・トラストと共同で「ツリーメンダス・スクール・メイクオーバー」プロジェクトに参加し、プロジェクトを通して子どもたちに環境やニュージーランド固有の動植物の大切さを教育しています。設立以来、固有種による庭園づくりや野外教室を通じて、ニュージーランド全土にわたる31校と関わってきました。

2015年度は、応募校の中から4校※3が選ばれました。 c

また、MMNZは2004年から緊密な関係を続けている同トラストの自然保護事業支援のために、MFNZによる継続的な支援と並行して、マツダ車2台を提供しました。同トラストの使命である、ニュージーランド各地で固有植物への植え替えを行うために、有効活用されています。また、マツダ車は活動の象徴として、人々の認知向上に寄与しています。 d

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

MMNZの社会貢献活動推進者

社長 アンドリュー・クリアウォーター
(マツダ財団ニュージーランド理事長)

a オークランド動物園へのマツダ車提供

b PCFへ提供された
象徴的なブルーリボンが入ったマツダ車

c Havelock North Intermediate Schoolで
のツリーメンダス・スクールプロジェクト

d プロジェクト・クリムゾン・トラストへ
マツダ車を贈呈

※1 年間700,000名以上の来場者があるオークランド動物園は、世界で最も先進的な動物園として高い評判を得ています。非営利的な野生動物保護団体として、ニュージーランドと世界の両方で野生動物の保護と未来を築くことに重点を置いています。

※2 前立腺がんは、ニュージーランドの男性の間で最も一般的ながんの一つです。PCFの使命は、前立腺がんに対する診断と治療に対して詳細な情報を得た上で決断できる環境を男性に提供することです。ニュージーランド全土でPCFはピアサポートを男性や前立腺がんと診断された患者の家族に提供し、地域振興を通してこの病気の意識啓発を行っています。

※3 Horsham Downs School(5月)、Havelock North Intermediate School(6月)、Waikouaiti School(7月)、Renwick School (8月)。

クライストチャーチ・スクールオブミュージックの支援 人材 地域 財団

目的：生徒たちが音楽を学べるよう楽器購入のための資金を提供する。

取り組み／2015年度実績

MFNZのクライストチャーチ・スクールオブミュージック(CSM)※1への助成金は、デジタルピアノ1台と複数のバイオリン、チェロなどの弦楽器購入に充てられました。助成金により学校の支出を抑えることができるため、800名以上の生徒たちの楽器利用機会を増やしつつ、学費低減に貢献しました。 e

e CSMの支援

カイタイア大学の支援 地域 財団

目的：マオリ文化の保護・奨励により生徒たちの自尊心を醸成する。

取り組み／2015年度実績

MFNZの助成金は、ファー・ノース地区に位置するカイタイア大学で20年使用していたカパハカ※2衣装を買い替えるために充てられました。 f

f カイタイア大学の支援

環境 環境保全に貢献する取り組み　安全 交通安全に貢献する取り組み
人材 次世代を担う「人」を育成する取り組み　地域 地域に根ざした取り組み
財団 マツダ財団を通じての活動

※1 CSMは1955年に創立した非営利組織で若い生徒たちにオーケストラやアンサンブルを演奏する機会と併せてグループ授業も提供しています。
※2 カパとハカはそれぞれマオリ語で、グループ、ダンス、という意味です。

マツダ株式会社

発 行：マツダ株式会社　CSR・環境部
本社所在地：広島県安芸郡府中町新地3-1　〒730-8670
発行年月：2016年8月

UD FONT by MORISAWA